

Origami Tanteidan Newsletter 折紙探偵団新聞

51号
コンベンション
特集号

第三回「蛇腹による曲面表現」

＜カドを増やさない蛇腹＞

前号で予告した通り、今回からはいくつかの技法の個々に対して、筆者が感じ取っている魅力や独自の解釈などを詳しく述べることにする。気まぐれなテーマ選択の結果、今回は「蛇腹」について書くことになった。

一般的イメージとして、蛇腹は多数のカドを思い通りの位置にいくら

でも取り出すことができる技法として認識されている。その最たるものが、目黒俊幸氏の「うに」などであろう。しかし最近（反抗期がきてひねくれた？わけではないらしいが）筆者は、「カド出し」ではない目的で蛇腹を使っている作品に興味を持ちはじめています。以下にそうした作品をいくつか、筆者の知る範囲で挙げてみよう。

＜折紙作品に於ける曲面＞

津田良夫氏の「巻き貝」は、蛇腹をカド出しのためではなく「造形的要素」として使用したよい例であろう。ずらしながら引き出すことによって有機的なふくらみをもつ曲面を生み出し、さらに空気を含んで風化したような感じを与える造形としている。布施知子氏の「鶴と扇と」を初めて読んだときも、「蛇腹を広げて扇状にすると、こんなにも新鮮な表現ができるのか!!」とつよく感銘を受けた。ジョセフ・ウー氏の「鱗のある龍」の胴部などの平織り作品は、広い意味での「蛇腹の拡張」と解釈できると思う。これはぴったりと直線で折りあげているにもかかわらず、「折紙爬虫類」とでもいうべき波打つ曲面を生じさせてしまう。ジェフ・バイノン氏の「びゅんびゅんパネ」、ジェレミー・シェイファー氏の「フラッシャー」などは、蛇腹の基本構造によって形成された曲面がまったく予想外のアクションを見せる。さらに故・吉野一生氏の「馬」のたてがみも、今回の分類範囲にかかってくる部分があるかもしれない。

上記の作品について共通して言えることは、曲線・曲面（のイメージ）をつくりだすための基本的な方法として直線的な蛇腹折りを用いていることである。津田氏の巻き貝は「ひだを引き出しながら曲線的に」折っているが、作品表面にあらわれるのは直線的な蛇腹折りによってつくられたひだなので、完全なぐらい折りでの「寄せて、留めて」という方

法による曲面構成とはまったく性格の異なる張りつめたイメージ、きっちり感をもった造形、するどい曲面となる。

こうした蛇腹使用法に於いて生じてくる問題点は、大規模な作品の一部のパーツとして組み込むことの難しさである。これは技術的な面ばかりでなく、完成形の中でのデザインの調和の難しさについても言える。これまでに存在した多くの作品では、作品全体が上記のような方針のもとに実験的につくられている、という印象がつよい。そうした中で吉野氏の馬や猪、エリック・ジョワゼル氏のハリネズミや亀、センザンコウなどは、トゲや鱗、甲羅の技巧的な模様表現と全体の生物的バランス、デッサンを共存させた作品として特筆すべきものであろう。

最近、「折り紙という方法によってできる曲面はどういう性質・特徴をもっているのだろうか？」と考えることが多くなった。「紙」という、もともと平面であり、かつ伸び縮みをあまり許容しない、強靱さもしくは「張り」を内在している材料、ここが金属板など可塑の材料と根本的に異なる。こうした材料によっては、円柱や円錐の側面のような表現は可能だが、球面のような曲面をつくりだすことはできない。湿り気を与えない限り、どこかに「直線」を感じさせる擬似的な表現ができるにすぎない。このような制約を逆手にとって、「紙的曲面」それ自体が魅力あふれるものと認識し、新たな視点・発想によって

さらにインパクトのある形状を文字どおり「引き出して」「展開した」のが上記のような作品であると思う。

蛇腹による曲面形成という技法は、明確な基準のもとに平面の作業台の上でつけられた「確信のある折り線」の魅力を、刺身のように新鮮なまま取り出して味わっているとも言えるのではないだろうか。さらに、作品内部にしまいこまれるはずだった線や面を引き出して情報量を二次元から三次元に解放することにより、多くの線がぴったりと重なっていて窮屈で重苦しかったイメージから、まったく軽い風化したイメージへと作品が変貌する（情報量は殆ど変化させないままで!!）。線や面の重なりは決して隠すべきものではなく、それ自体が豊かな表現力をもつパーツになりうるのである。

最後に、拙作「虎」（開発コードネーム・シワトラ）の背中の曲線が蛇腹の構造から取り出されたものであることを付け加えておく。引き出し・ずらしによる縞の表現も重要ポイントである。制作時点での力量の限り、蛇腹の魅力をこれでもかという感じに詰め込んでみたつもりなのだが。



折り紙
という
方法 北條高史



どこか **折紙時評** やねん

前川 淳

まえかわ じゅん Jun Maekawa

- フランス語も解せる哲学徒の羽鳥公士郎君、この本、翻訳してくれない？
- それにしても、このページ、文字ばかり。

第11回
わたしも
「折り紙の哲学」を

先の7月25日のコンベンションにおける布施さんの講演によると、フランスの折り紙が熱いようだ。しかも、伝統的な折り紙を逸脱した試みが大いに勢いを持っているらしい。それと関係があるのかどうか、つい先日、実に興味深いフランスの哲学の著作に遭遇したので、今回はその件を報告しよう。

とは言っても、わたしも、その著作がフランス折り紙界の思想的基盤になっている、などと思っているわけではない。ただ、その思想とフランスの折り紙が、地下茎のようにして繋がっているかもしれないとは感じている。ここで「地下茎」という言葉を持ち出したのは他でもない。「地下茎(リゾーム)」を思想の言葉として使ったジル・ドゥルーズそのひとが、その問題の本の著者なのである。

ジル・ドゥルーズ。いわゆる現代思想に知見があるひとなら、知らないことのない名前だろう。数年前に天翔けてしまったこの哲学者に「贅(ひだ)」(1988)という著作があり、その本の中に、折り紙が、それこそ「畳み込まれて」いたのだ。

残念ながらこの本は日本語に翻訳されていない。わたしがその内容の一端を知ったのは、この本を引用している本を読んだからである。しかし、そのわずかな引用箇所だけでも「これはっ！」というものがあつた。例えば、こんな文章だ。

「なぜなら問題となっているのはつねに折り畳むこと、折り畳んだものを広げること、再び折り畳むことである」(「ドゥルーズ 存在の喧騒」(アラン・バディウ著 鈴木創士訳 河出書房新社)「贅」引用部分の引用)

もともと哲学書であるところに、前後の脈絡もなく、いきなり「なぜなら」から引用したので、何が何やら意味不明だろうが、それを無視してもう一度読んでほしい。「問題となっているのはつねに折り畳むこと」とき

たもんだ。実になんとも「われわれ」のことを記した文章ではないか。そうなのだ。これは「われわれ」のことを記した本なのである。

もっとも、この本に対する「これはわれわれのことだ」という反応は、他にもあつたようだ。例えば・・・

「彼(ドゥルーズ)は、自分は哲学によって哲学を出ると明言している。(略)「贅」という本を書いた。そうしたら反応があつた。(略)印刷屋の紙折り職人が「贅とはわれわれだ」という手紙をくれたというんです。(略)それが哲学から出ることだ、と彼は涼しい顔で言う」(「シンポジウムIII」柄谷行人編著 太田出版 蓮實重彦氏の発言)

ふーむ。だがやはり、「これはわれわれの話である」と断言してしまおう。なぜって、以下のように、たぶん原文でも「オリガミ」という言葉を使った記述が含まれていたりするのである。これは無視できないではないか。

「物質をあつかう科学のモデルは<折り紙>である。つまり、紙を折り畳む技法である」(「記号と事件 1972-1990の対話」(ジル・ドゥルーズ 宮林寛訳 河出書房新社)「贅」引用部分の引用)

生物の形態形成における位相幾何学の適用、複雑系における「パイコね変換」といったことを想定しての発言だろう。かつて「世界はオリガミに満ちている」などと言ったことがあるわたしとしては、我が意を得た、・・・いや、それ以上の大風呂敷である。なにせ「科学のモデルが折り紙」(!)である。これは、折り紙の方が科学より上位の概念であると言っているのに近い。

「贅」の副題は「ライブニッツとバロック」であり、同書では、贅という概念によってバロック様式を説明している(らしい)。これもわたしにとってはひとつの符合である。かつて川崎敏和さんが、わたしの折り紙作品においてよく使われる折り目を

あらかじめ描き込んだ紙を作り、それを「前川紙」と名付た。いくつもの交差する直線が描き込まれた正方形のその紙を見たあるドイツ人が、「バロックを思わせる」と言ったことがあるのだ。「バロック」がなんたるかについて漠然とした知識しかないので、この発言の意味するところは計りかねるが、なんとも思わせぶりである。

「贅」という哲学的概念に関しては、「記号と事件」の中の質問者が、「これほど効率よく、しかも突っこんだ作業のできる概念は、一種のインフレーションをおこ(すのでは?)」との疑念も投げかけている。しかし、われわれ(わたし?)としては、勢いを駆って、「世界はオリガミに満ちている」どころか、「世界はオリガミである」と言ってしまうたい。

「贅の中で知覚がなされ、世界はひとつの魂の中で折り畳まれ、魂は魂で、空間と時間の調和にしたがって、世界のうちのどこかが折り畳まれていたのを広げるのです」(「記号と事件」)

実際に紙を折り畳む技術を磨いているわれわれは、「世界」を折り畳んだり広げたりする技能も向上しているのだろうか？ 自らを省みればまったくそんなことはなさそうだが、折り紙の楽しみ的一端が、「この世界で起きている様々な折り畳みを、実際に紙を使ってシュミュレーションすることにある」ことは間違いないような気がしてくる。ははは、わたしは哲学者の言葉に弱いのである。

とまあ以上のように、ドゥルーズの「贅」をめぐるわたしの感想は、こうして文章に畳み込まれ、その文章は「折紙探偵団新聞」に畳み込まれた。かくして、ライブニッツとドゥルーズとわたしとこれを読んでいるひとの間に時間と空間は折り畳まれた。・・・って、よく考えたらこの本まだ読んでいないや。

本を探す

地方版編集局

地方に住んでいると、折り紙関係の本や紙を購入するのに苦労します。書店に注文してもやたら待たされたあげく、絶版になっています、という返事を受け取ることも度々です。

インターネットに本を探すホームページ (<http://www.books.or.jp/>) があります。タイトルや著者名など情報の一部が分かっている目的の本を簡単に見つけることができます。しかも、これが最も重要なことですが、現在書店で入手できる本のみがリストアップされます。例えば66年出版の笠原邦彦著「折り紙を楽しむ本」が入手可能であることが分かります。以下このホームページに挙がっている探偵団員の著書(書名、出版社+出版年(1996年まで)、税抜き価格)を紹介します。シリーズものはまとめています。なお双樹舎やおりがみはうすなどが出版している本は一般書店で取り扱っていないので探せません。(編)

笠原邦彦著書

うごかしてあそぼうおりがみのほん、福音館書店95, ¥838

おりがみ, 小学館95, ¥971

母と子のおりがみ新世界, 美術出版社94, ¥1845,

おりがみ遊面体, サンリオ92, ¥2913

最新・かわいい折紙のすべて/最新・折り紙のすべて, 日本文芸社91, 各¥1068

紙とおりがみ, 小学館81, ¥1456

おりがみ1/2, 笠原邦彦編, 竹川青良著,

おりがみ3, 久保書店78, 各¥850

おしゃれなおりがみ, サンリオ77, ¥450

おもちゃと遊びの本/手づくりおも

ちゃの本, 久保書店75-74, 各¥800

たのしいおりがみの本, 久保書店74,

¥850

おとぎのくに/びっくりばこ/せかい

のとり/とりのくに/どうぶつえん/

につきちょう/むしとはな/すいぞく

かん, 有紀書房71-69, 各¥466

おりがみ1,2,3,4,5, 有紀書房69, 各¥485

折り紙を楽しむ本, 久保書店66, ¥1,200

津田良夫著書

創作折り紙をつくる, 大月書店85,

¥1359

山口真著書

英語で折り紙, Kodansha International96, ¥971

おりがみどうぶつ/おりがみはな・やさしい, 山口真監・山口都著, 金園社95, 各¥757

すてきな折り紙/人気折り紙/はじめての折り紙, 主婦と生活社95-94, 各¥1165

日本のおりがみ事典, ナツメ社95, ¥1262

おりがみあそびの本, 絵河本識史, 田中年子, 講談社93, ¥951

やさしいおりがみ百科/日本の伝承おりがみ, 西東社92, ¥1068

あそべるおりがみ百科, ナツメ社91, ¥971

おりがみ事典, 西東社90, ¥1068

かんたんおりがみ, 世界文化社90, ¥1515

日本のおりがみ百科, ナツメ社88, ¥981



高浜利恵著書

四季のおりがみ, マコー社94, ¥1650

暮しをかざるおりがみ(新装版)/

続 暮しをかざるおりがみ(新装版), マコー社91-90, ¥1456

新 暮しをかざるおりがみ(新装版), マコー社90, ¥1650

折仏, 共著・高寺寛榮・松村芳春, バベル社87, ¥3689

なかよし折り紙/よい子の折り紙, 永岡書店77, 各¥631

折り紙あそび/あたらしい折り紙/どうぶつ折り紙/たのしい折り紙, 共著・蘭部光伸, 永岡書店77-75, 各¥631

おりがみのおりかた/きりがみ/どうぶつおりがみ/はなのおりがみ, 有紀書房75-73, 各¥466

川村みゆき著書

多面体の折紙, 日本評論社95, ¥2900

布施知子著書

ひまなし山暮らし, 筑摩書房(以下、筑と略)96, ¥1500

まんぶくBox/折り紙キルト/折り紙スパイラル/折り紙デザイン, 筑95, 各¥1262

暮しを彩る遊々のおりがみ/-折々のおりがみ/-楽々のおりがみ, いしずえ96-95, 各¥1262

折り紙でつくるギフトボックス/ユニット折り紙でつくるおしゃれな小物たち, NHK出版95-93, ¥2330

だれでもできる最新くす玉折り紙教室, 誠文堂新光社(以下、誠と略)92, ¥1456

たのしい箱の世界/不思議な立体の世界, 新星出版社92, 各¥1262

デコレーションBox/一枚折りの箱/らせんを折ろう/鶴と扇と, 筑93-90, 各¥1194

箱バラエティー/立体バラエティー/四季の箱/飾りのある箱/動くおりがみ, 誠92-90, 各¥1165

折り紙ハート, オウ, F.M.Y著/ひし形立体とおもしろBox/箱自由自在1/2/立体万華鏡, 筑90-89, 各¥1194

箱をつくろう/立体をつくろう/世界のユニットおりがみ/長方形でおろう/立体からくり/つかってあそぼう/つないでつくろう, 誠88-87, 各¥1165

箱をたのしむ/ユニットあらかると/立体七変化/箱の百面相/生長する立体/筑89-86, 各¥1000

折り紙のたのしみ, 筑81, ¥1398

川畑文昭著書

おりがみ世界の野生動物, いしずえ96, ¥1262

恐竜のおりがみ2, 誠96, ¥1165

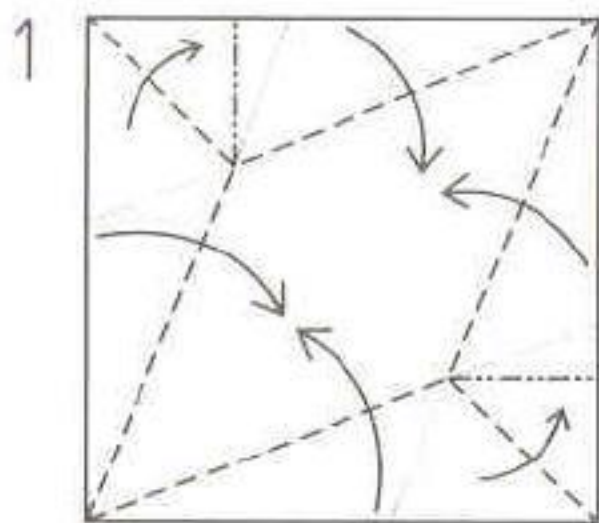
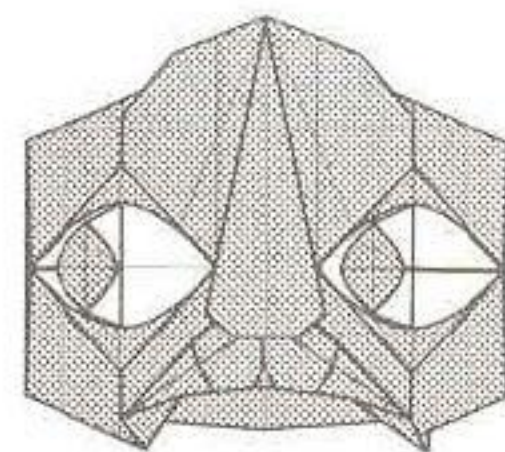
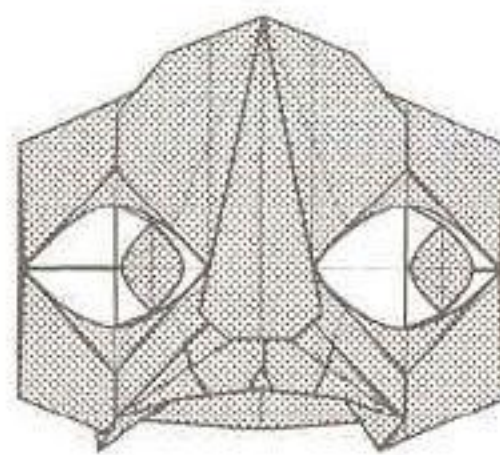
恐竜のおりがみ, 誠93, ¥1165

手元にはない本があったでしょう！でも集めたり眺めたりするだけじゃ駄目です。折り紙の本質は折ることです。一つ二つ折ってみてください。結構良いと思える作品が必ずありますよ。季刊誌「をる」の出版元双樹舎連絡先: ☎330-0033 埼玉県大宮市本郷町222-4, ☎電話048-654-1910 ▼リストのミスにお気付きの方はお知らせください。第1回折り紙の科学国際会議論文集完売。857-1193 佐世保市沖新町1-1 佐世保高専 川崎敏和 0956-34-8443(編)

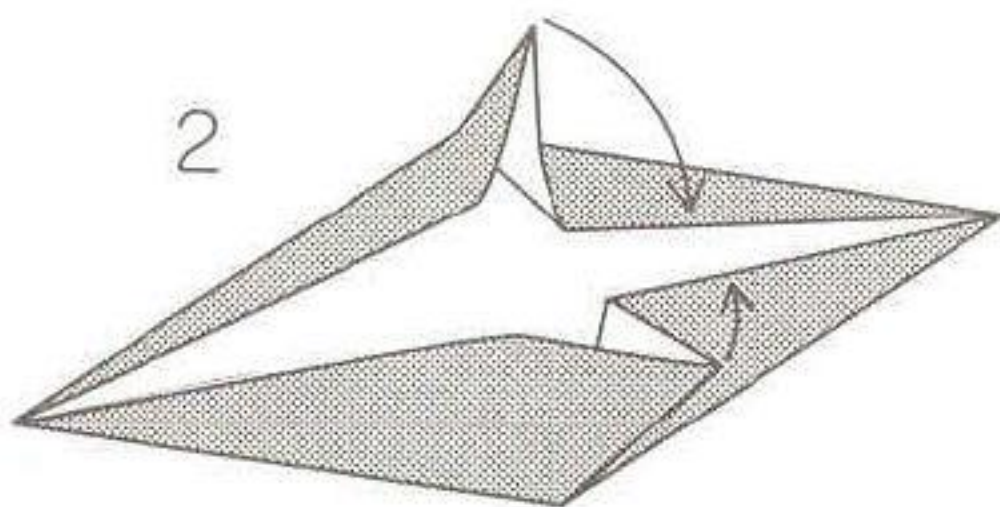
第4回折紙探偵団コンベンション
招待作家作品

Glancer

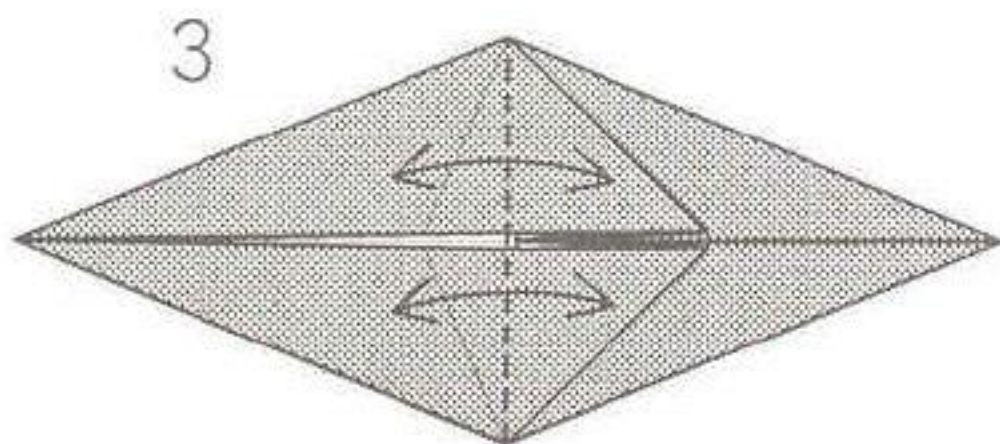
By Jeremy Shafer
1996



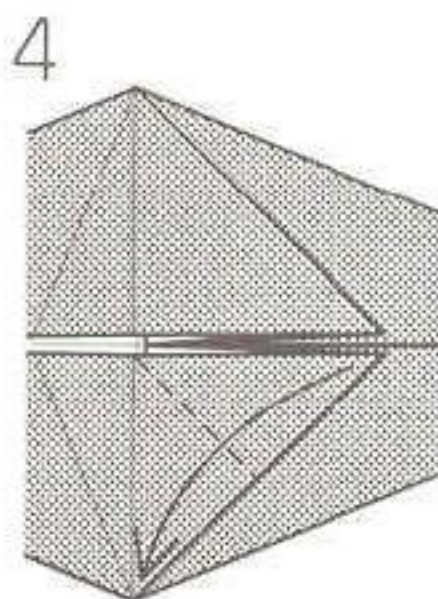
図のように折り筋をつける



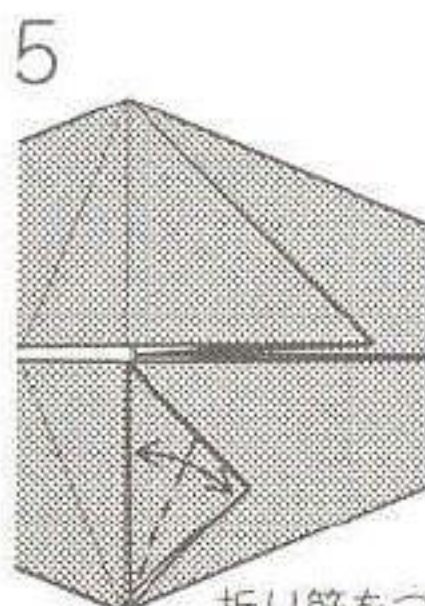
魚の基本形にまとめる



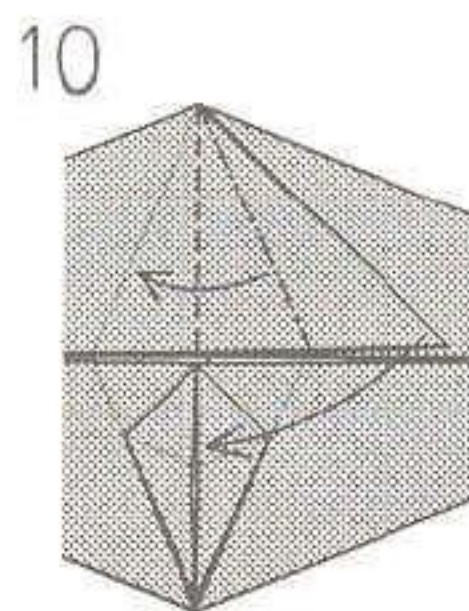
折り筋をつける



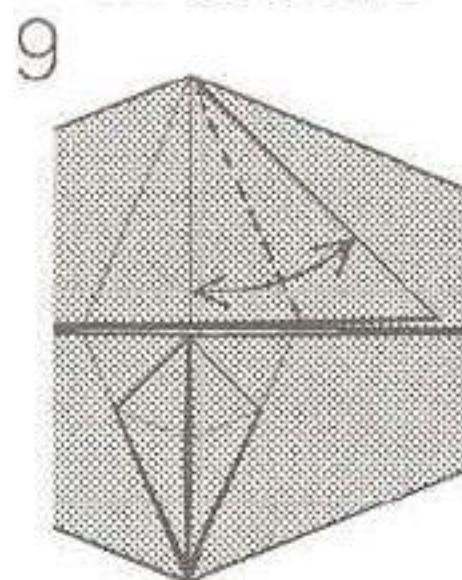
カドとカドを
合わせて折る



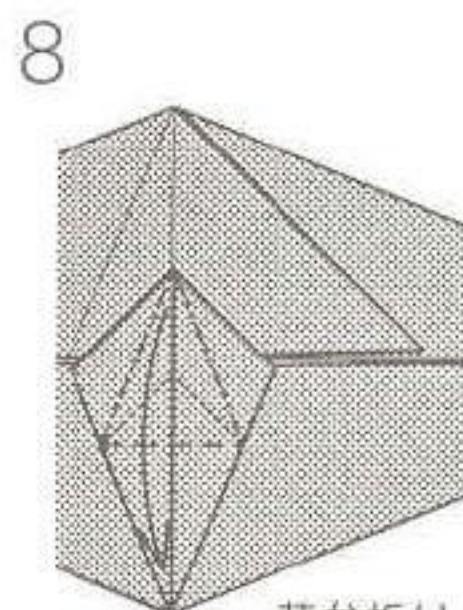
折り筋をつける



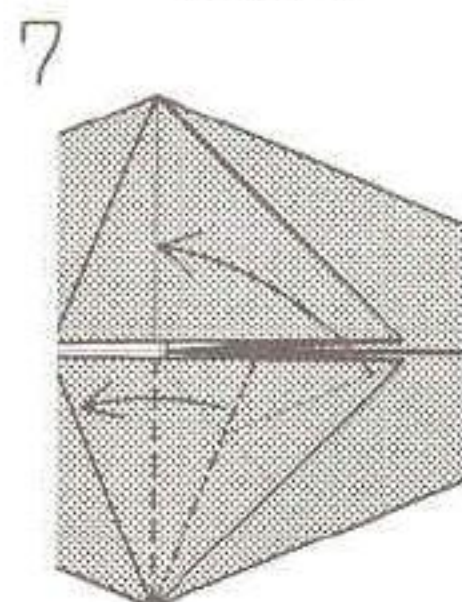
内側をひろげて
つぶすように折る



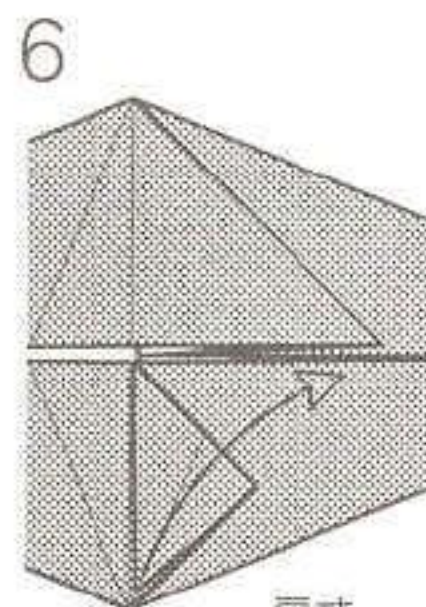
折り筋をつける



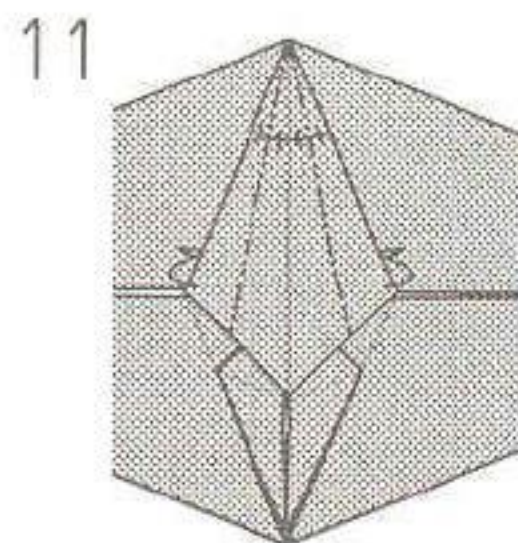
花弁折り



内側をひろげて
つぶすように折る

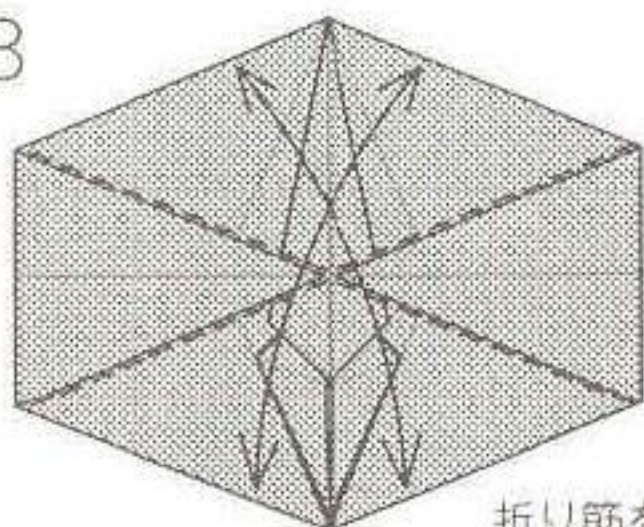


戻す



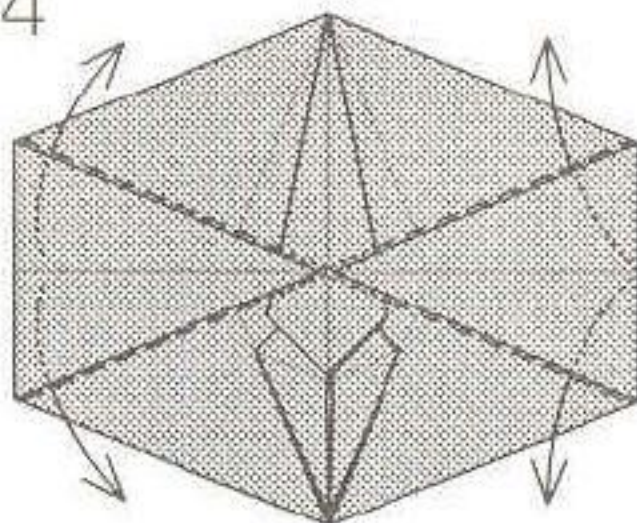
カドを
後ろへ折る

13



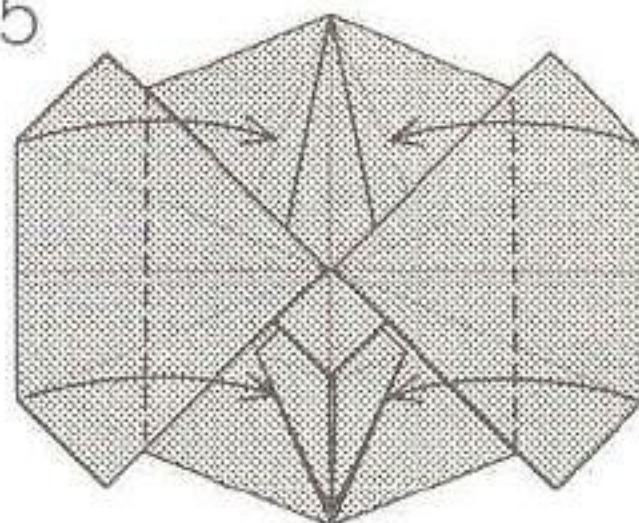
折り筋をつける

14

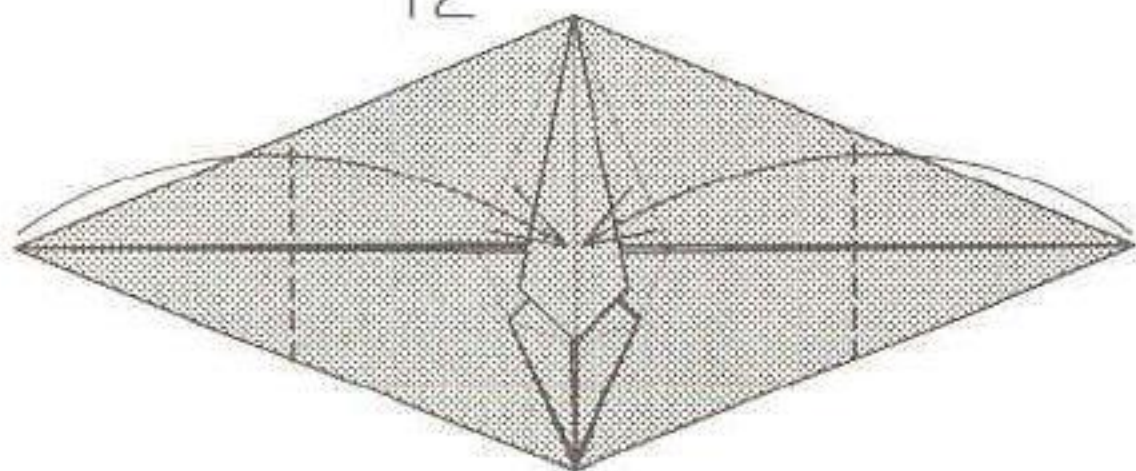


紙を引き出す

15

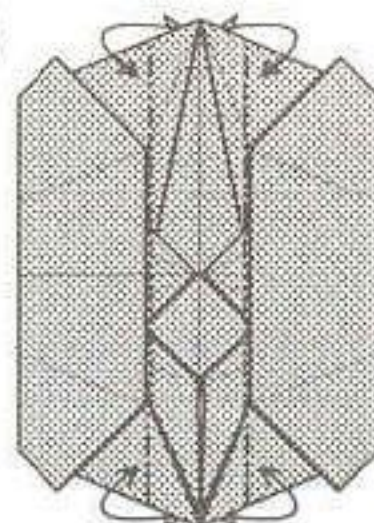
カドを縁に
合わせて折る

12

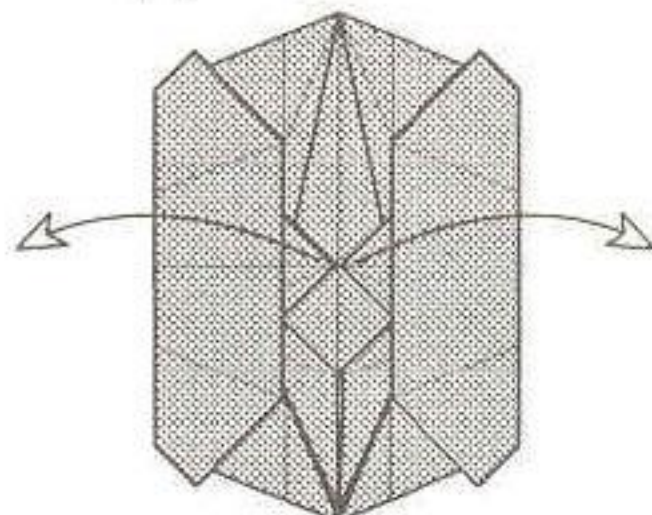


カドを中心に合わせて折る

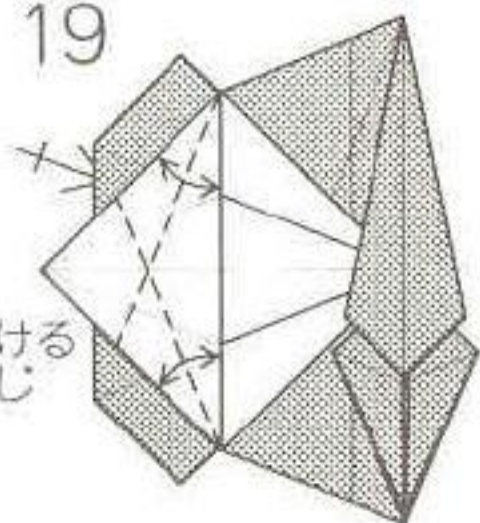
16

後ろに折って
折り筋をつける

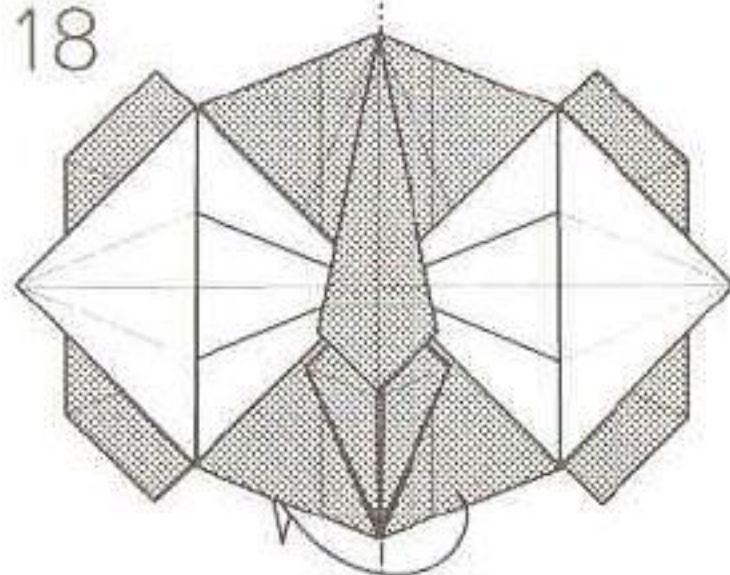
17

カドを持ったまま
ひろげる

19

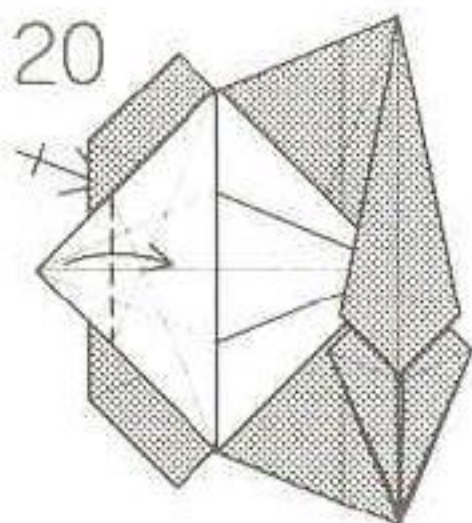
折り筋をつける
反対側も同じ

18

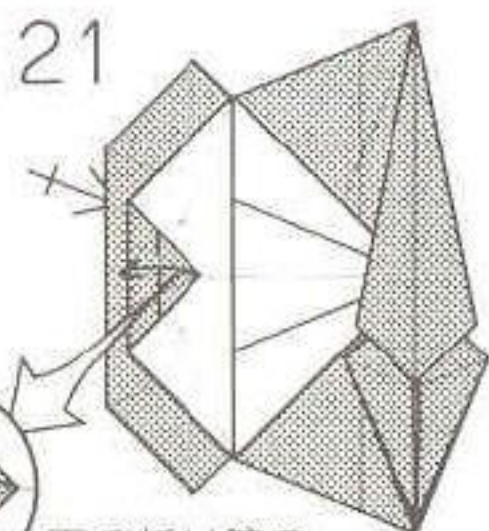


後ろへ半分に折る

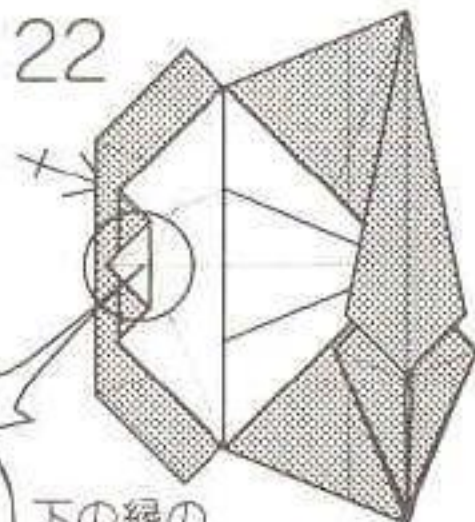
20

カドを折り筋の交点に
合わせて折る
反対側も同じ

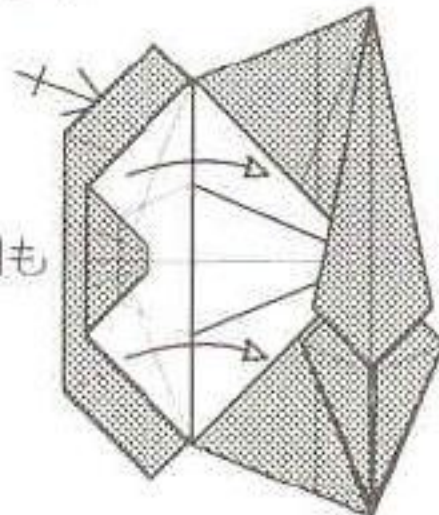
21

下の折り筋の
ところで
カドを折る
反対側も同じ

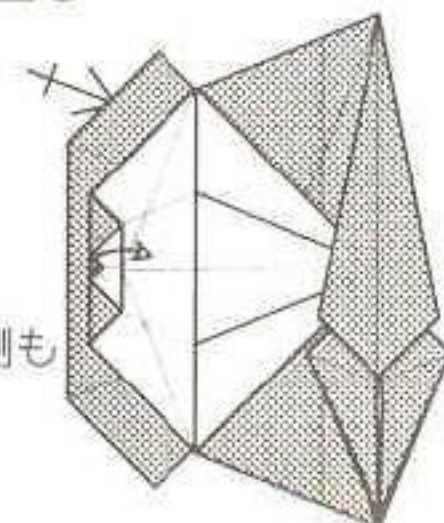
22

下の縁の
ところで
カドを折る
反対側も同じ

24

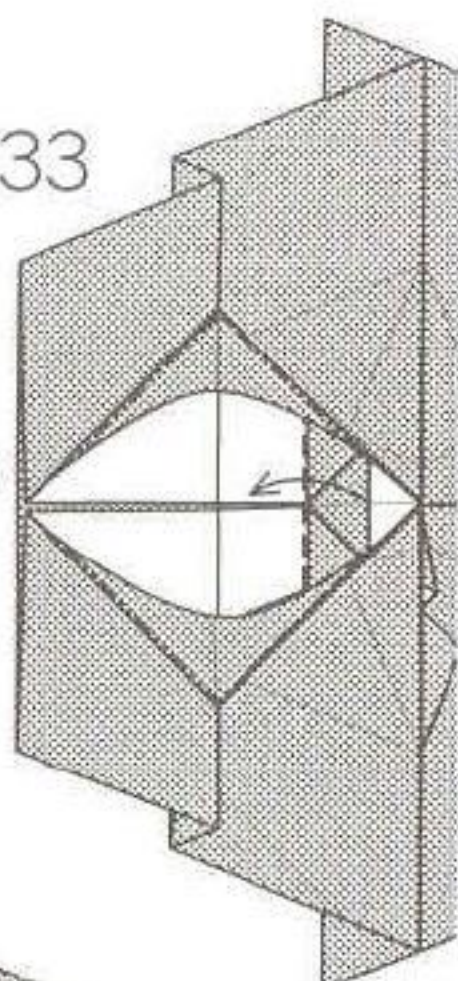
戻す
反対側も
同じ

23

戻す
反対側も
同じ

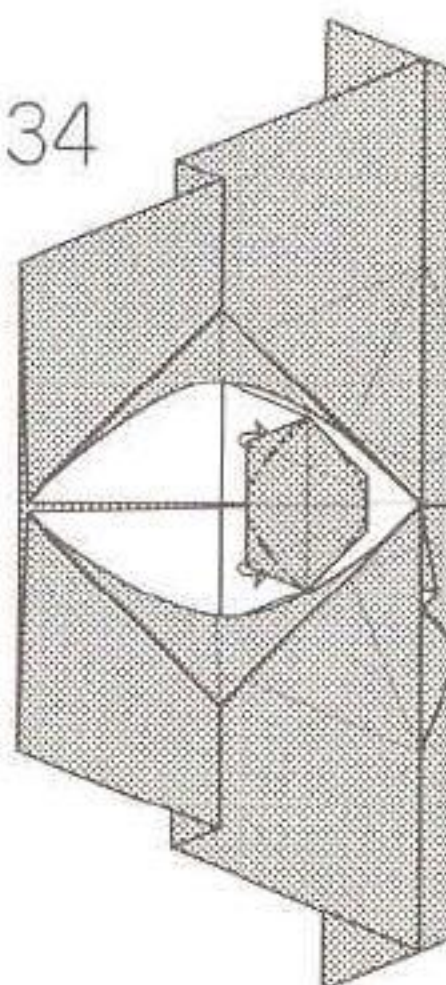
33

目玉を右側に
起こすように折る
脇の線を決めて
山折り

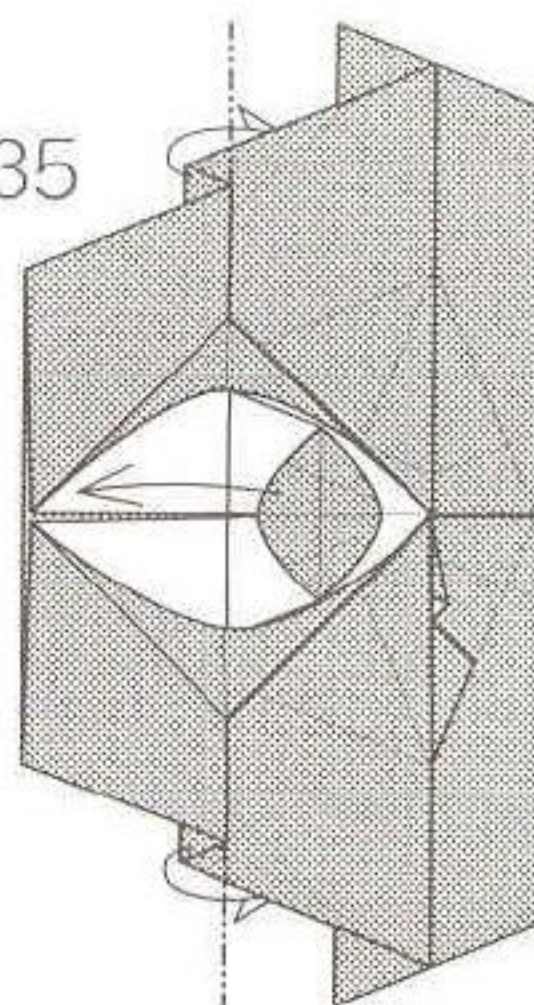


目玉を丸く
するように
カドを後ろへ折る

34

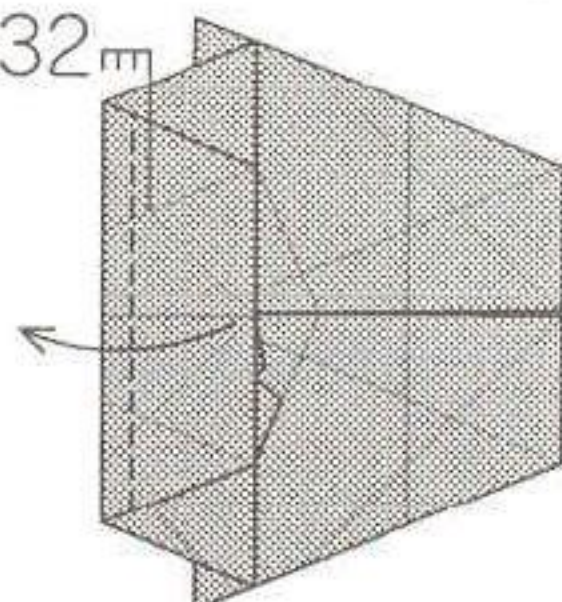


35



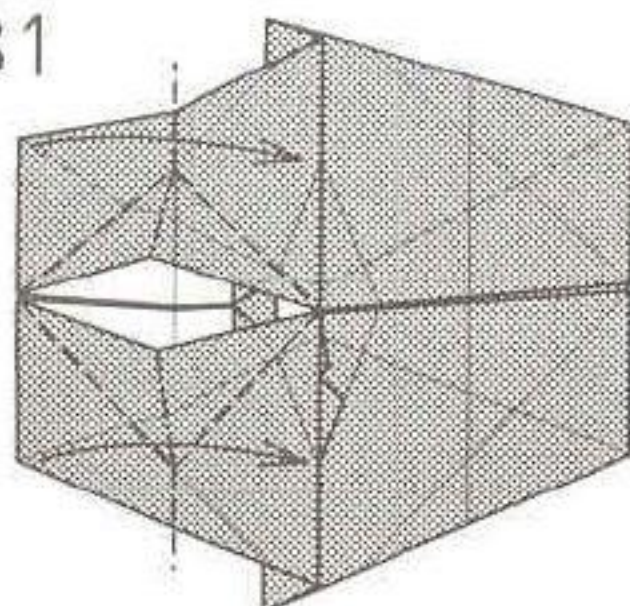
裏の縁を右に倒すと同時に
目玉を左にもってくる
元に戻して 10 回くらい
繰り返してはっきりと折り筋を
つける

32



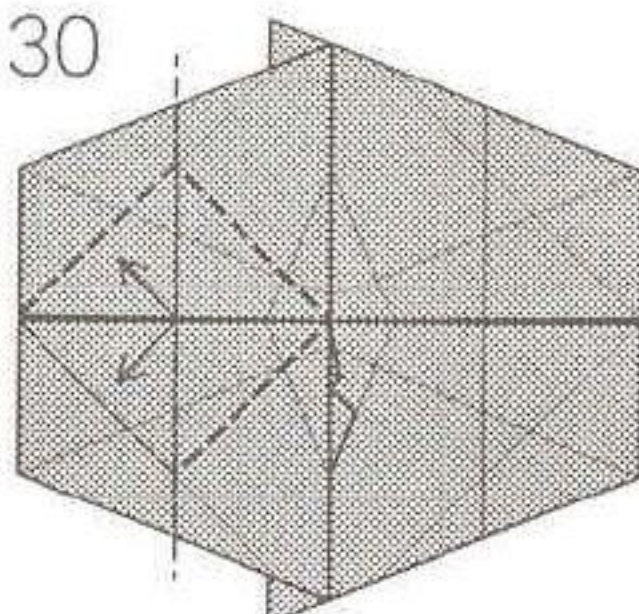
下の折り筋に
合わせて折る
(脇は平らにならない)

31



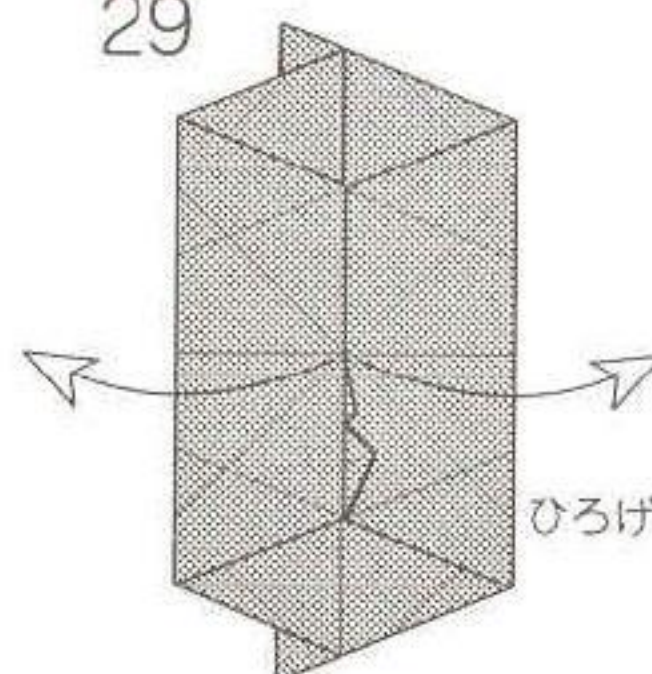
途中の図

30



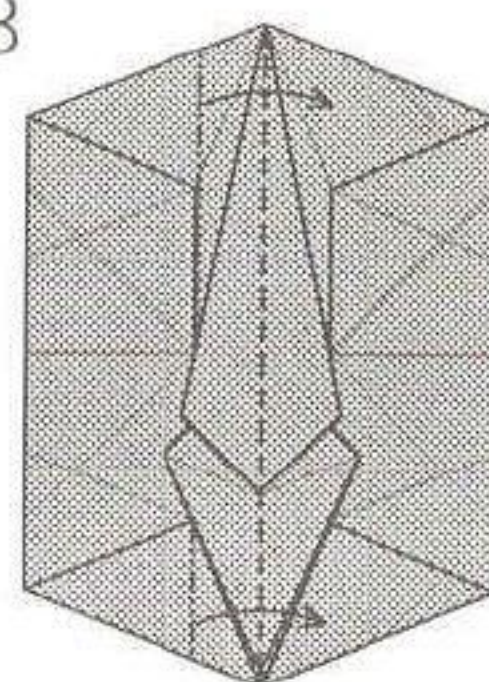
内側をひろげて
縁を中心に合わせて折る

29



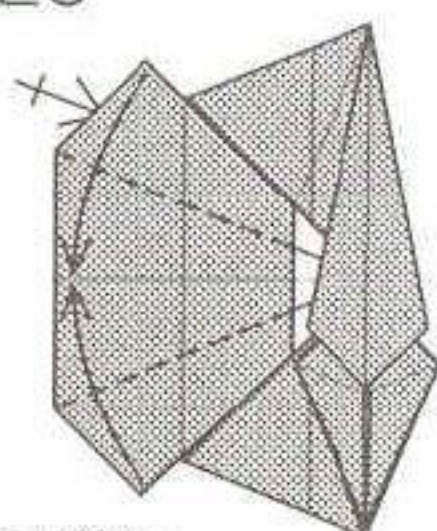
ひろげる

28



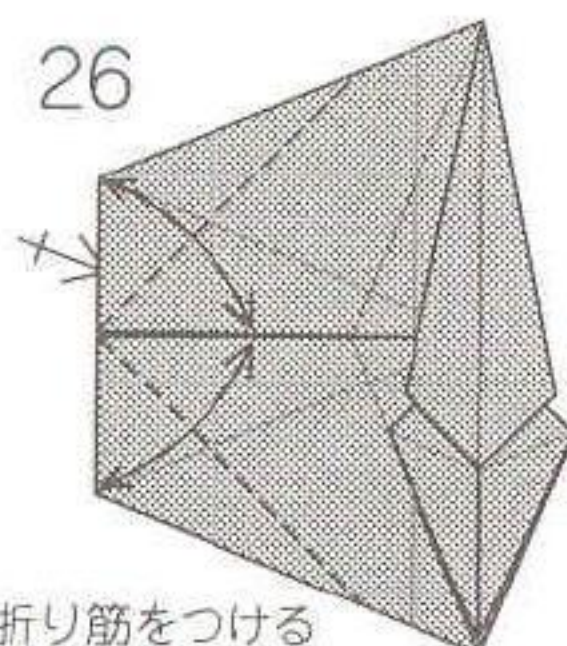
段折り

25



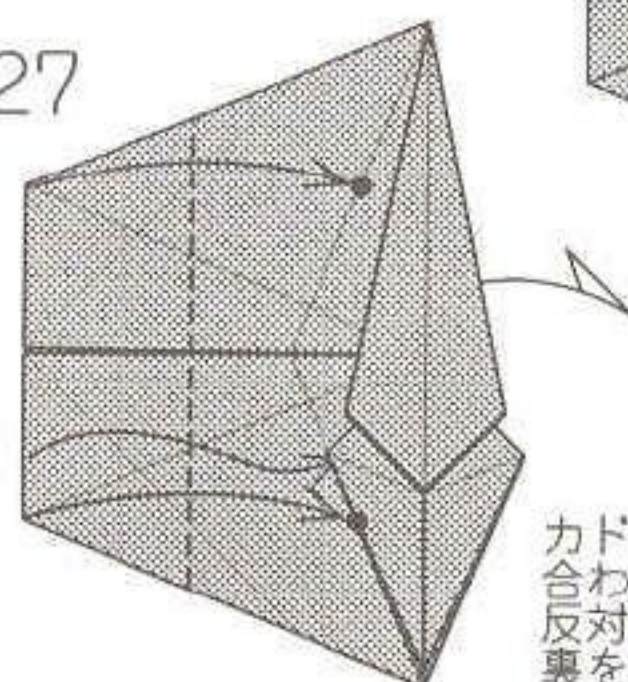
折り筋に
合わせて折る
反対側も同じ

26

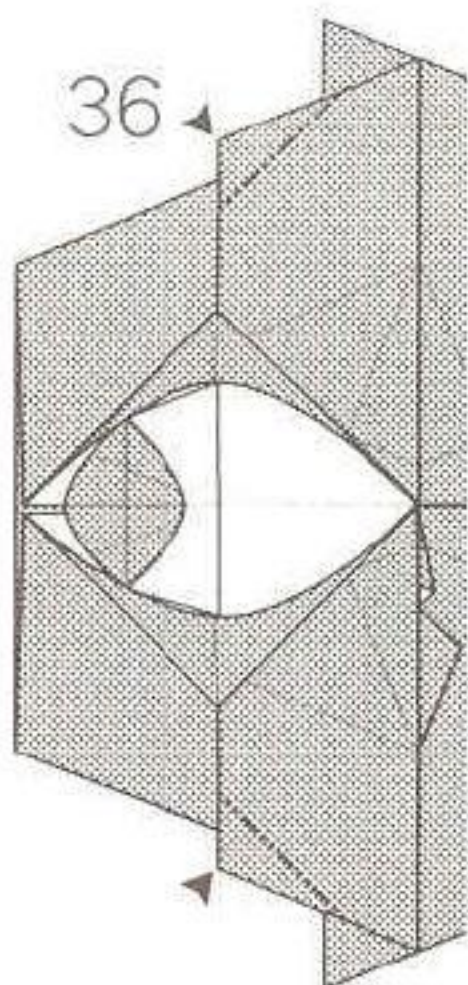


折り筋をつける
反対側も同じ

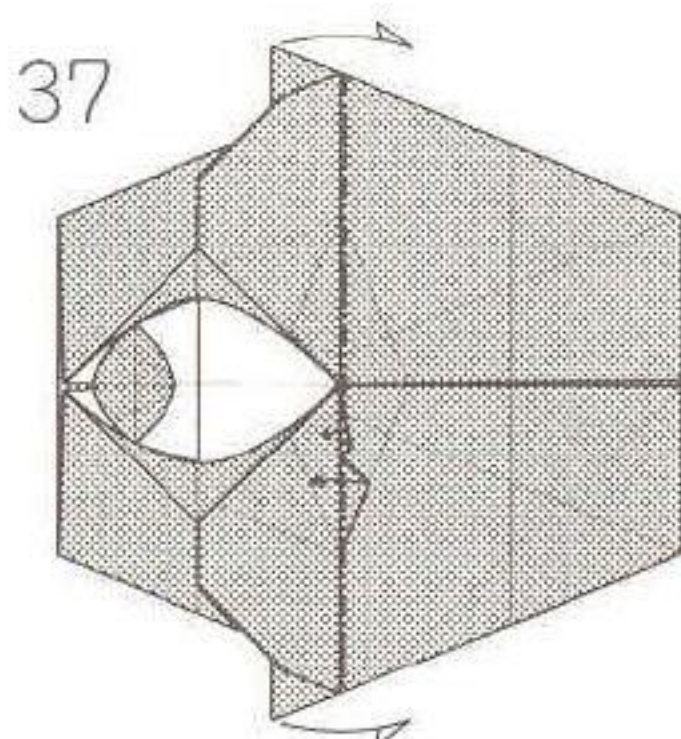
27



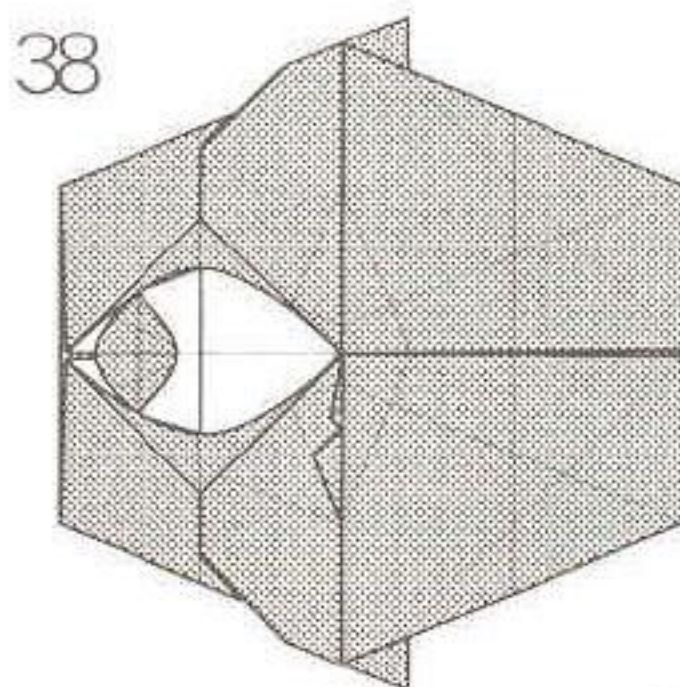
カドを既にある線に
合わせて折る
反対側も同じ
裏を折り返す



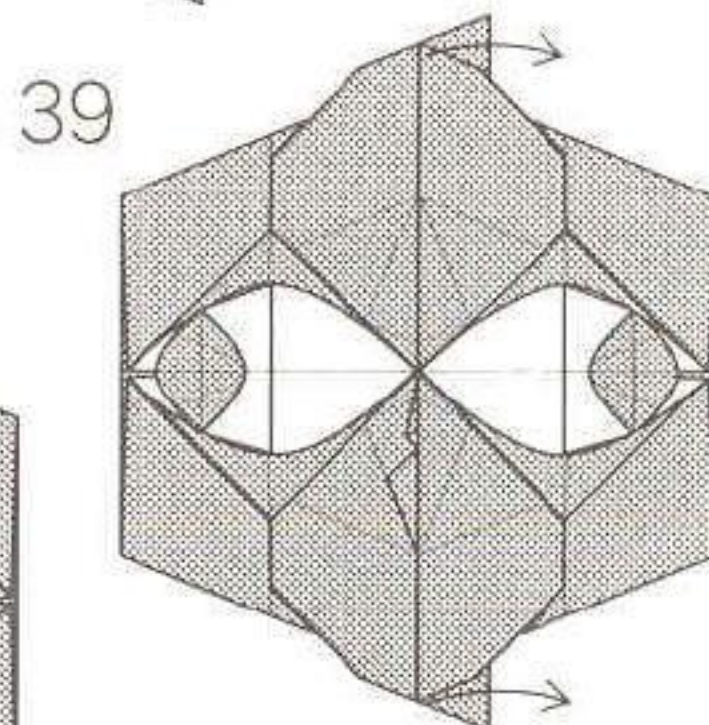
ついている線で
中割り折り



裏の縁を右側に倒す

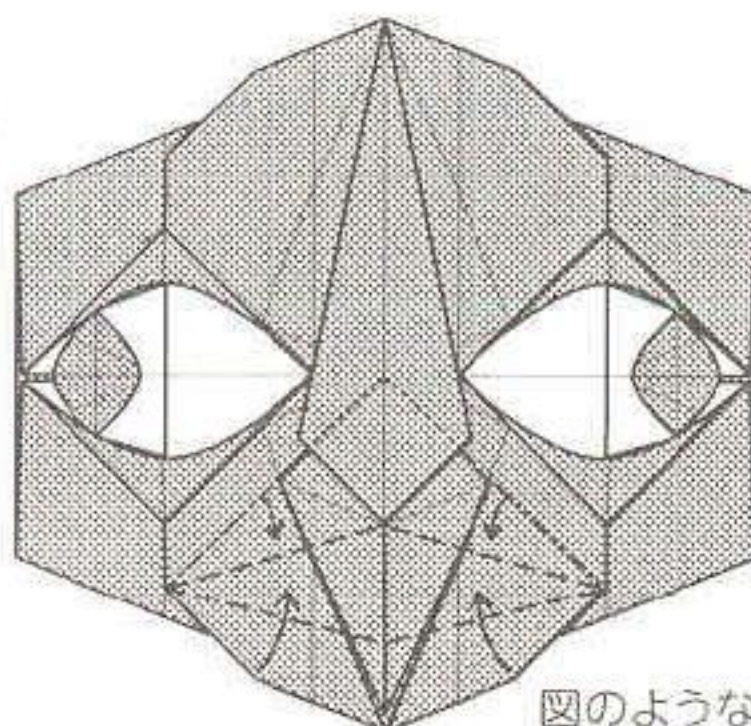


反対側も
30~37と
同じに折る



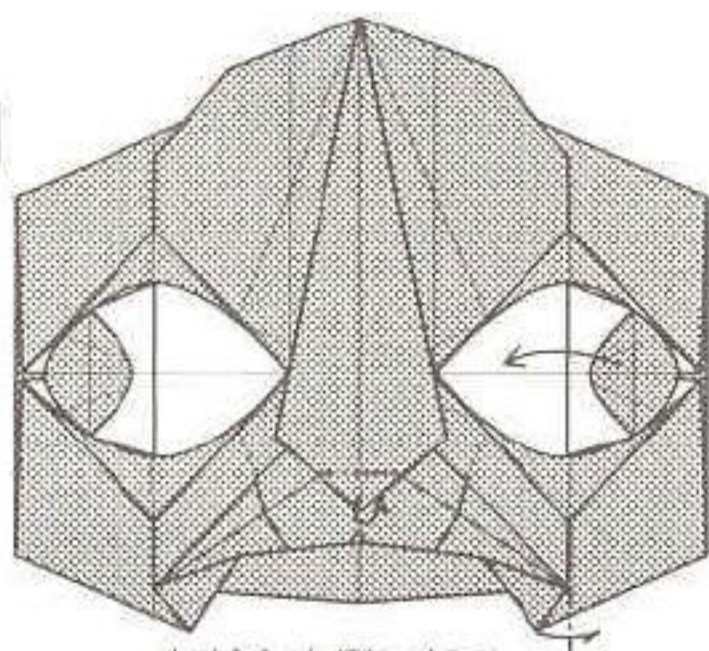
真ん中をひらく

40



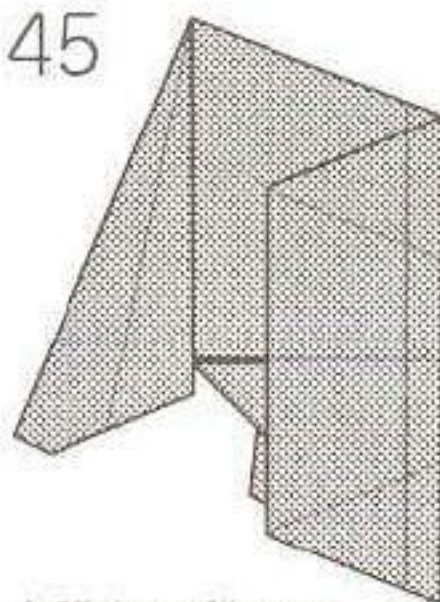
図のような折り筋をつけて
側面を引くと開くような
折り筋をつける

41



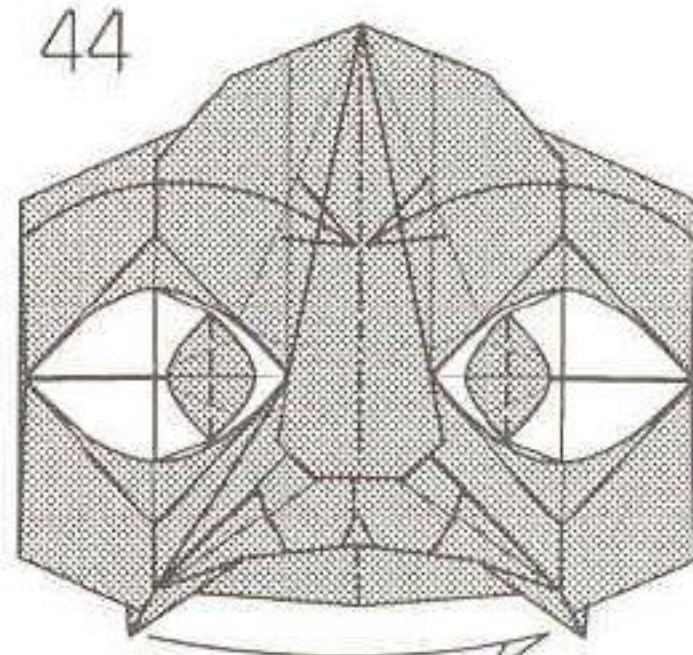
カドを内側に折る
右目を左側に寄せる

45



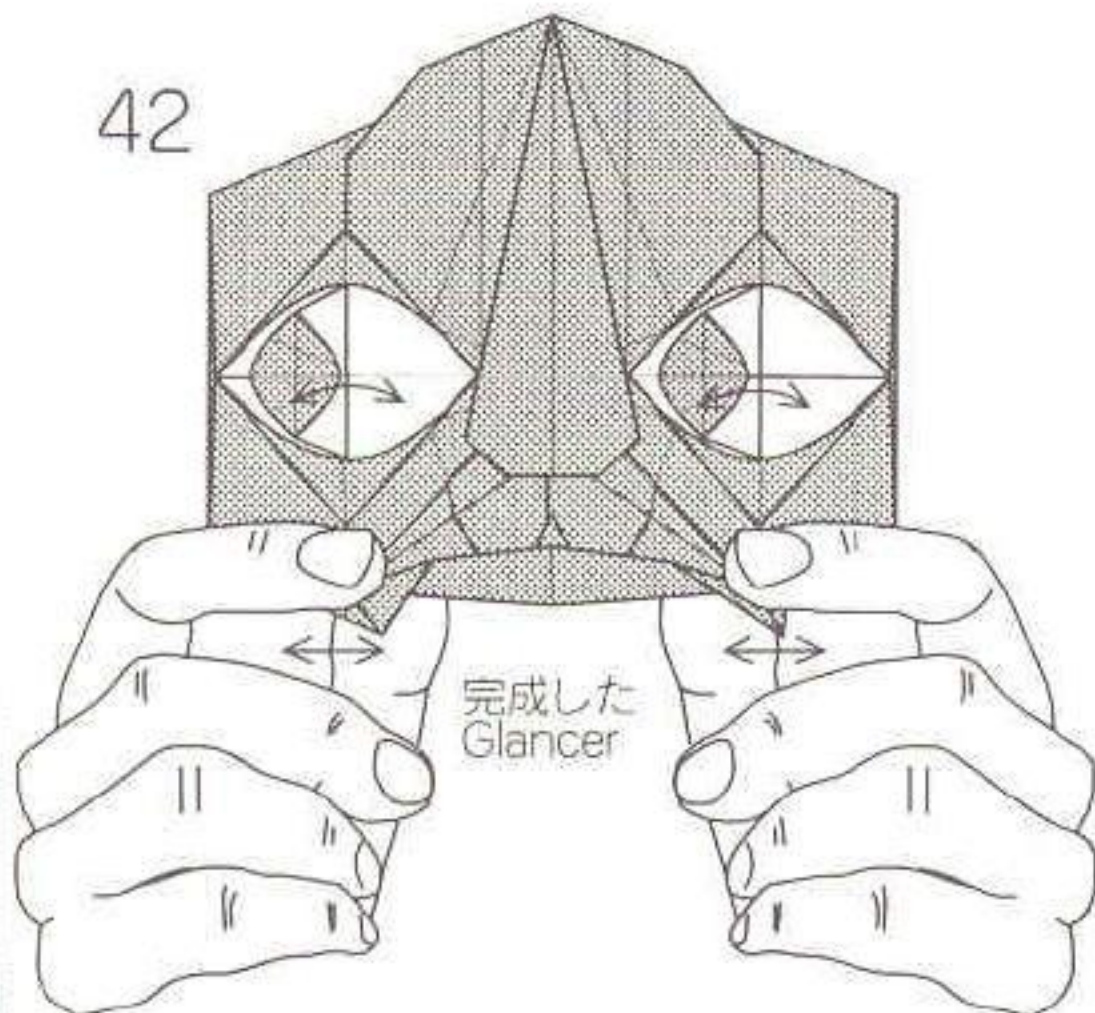
冬眠中の Glancer
きょろきょろする
次の機会を待っている

44



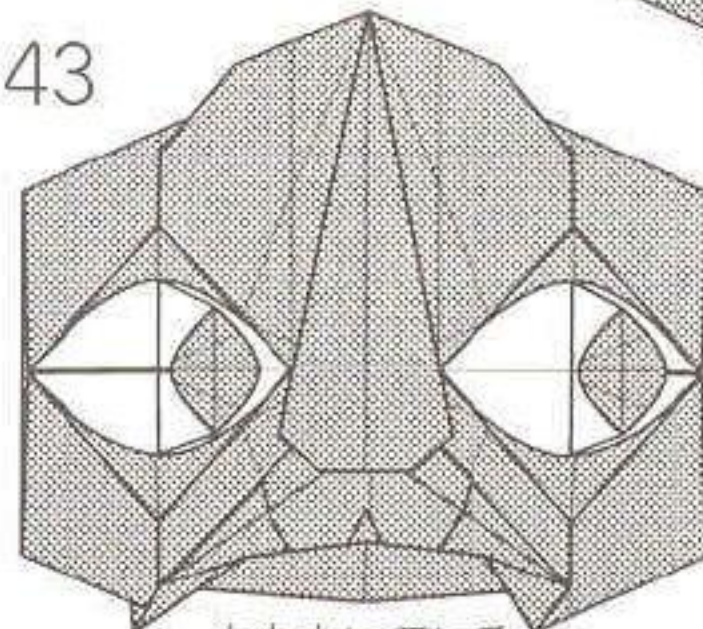
中心を向いている
Glancer
Glancer を
使わないときは
両方から同時に押して
平らにする

42



完成した
Glancer

43



右を向いている
Glancer

ゴホンツノカブト

2回連続=前編

川畑文昭

By Fumiaki Kawahata

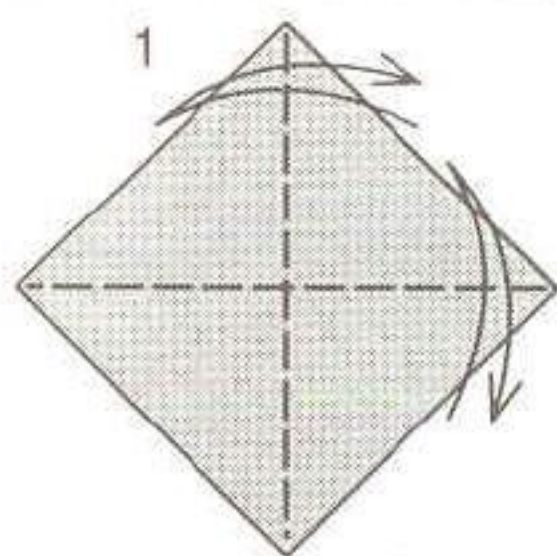
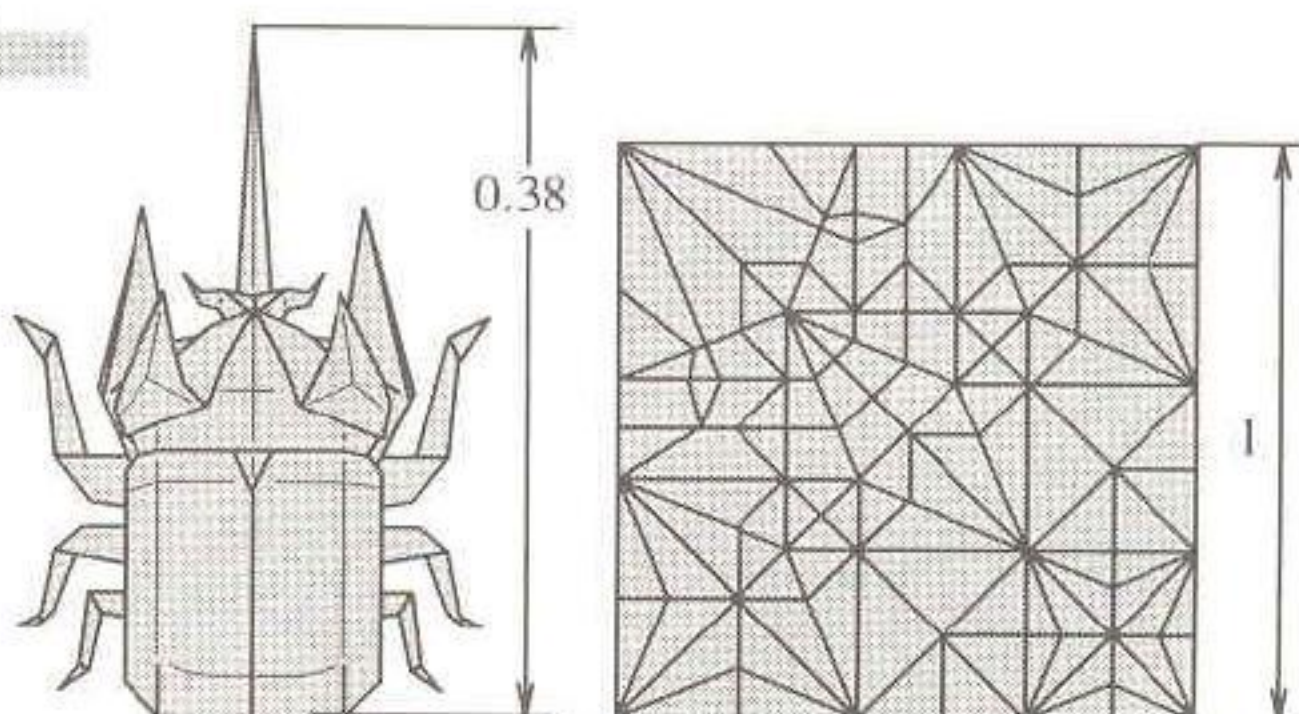
1998/5/16

体長 約70mm

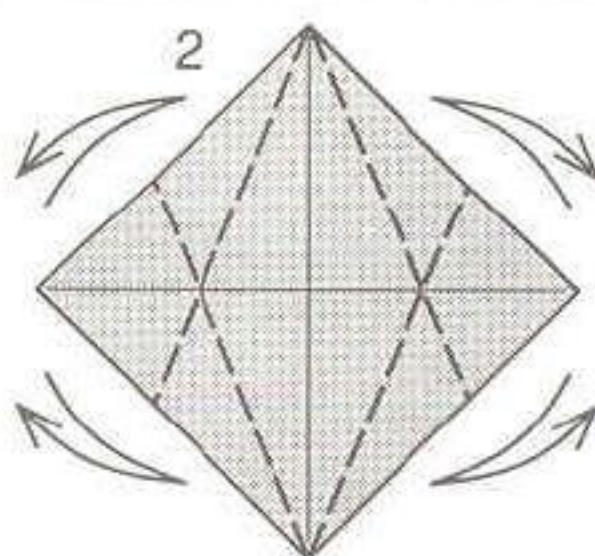
インドシナ半島、マレー半島

原寸大製作の場合

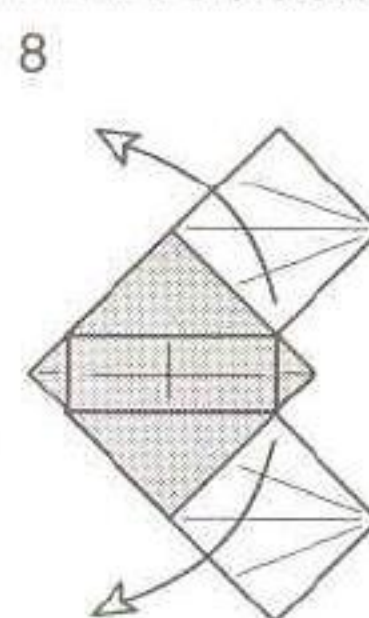
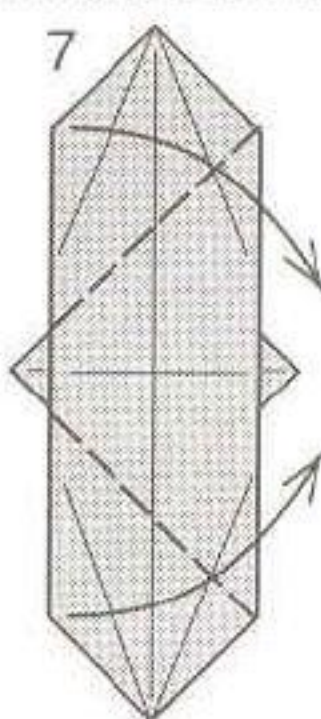
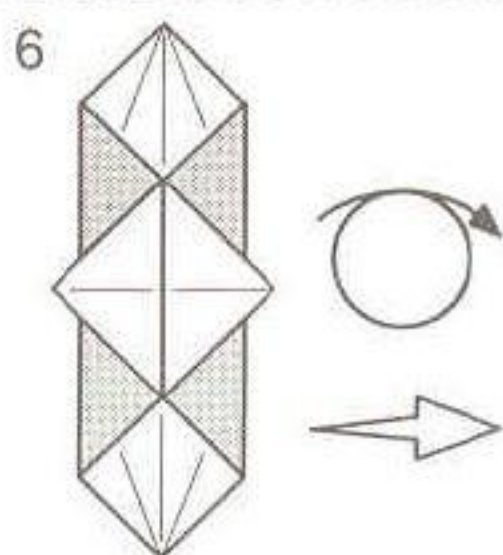
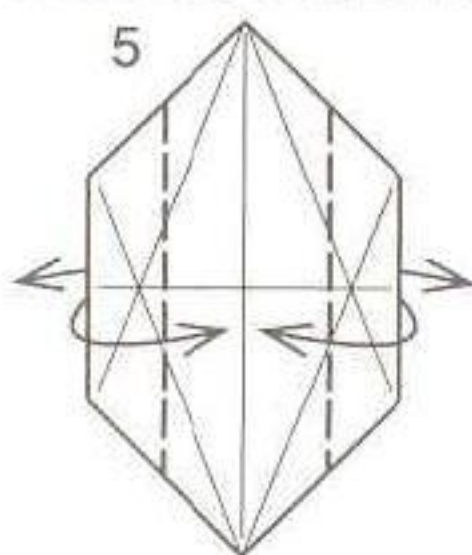
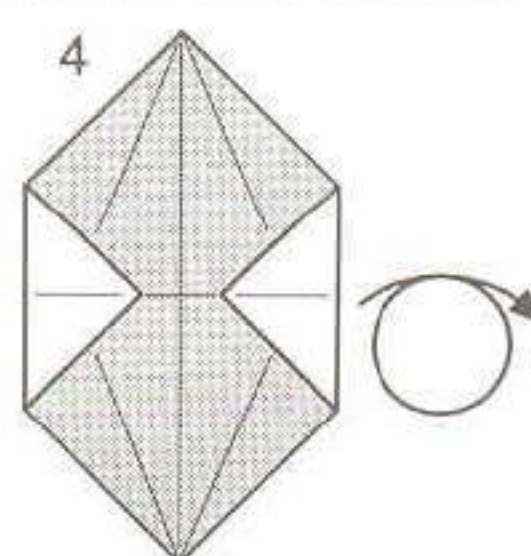
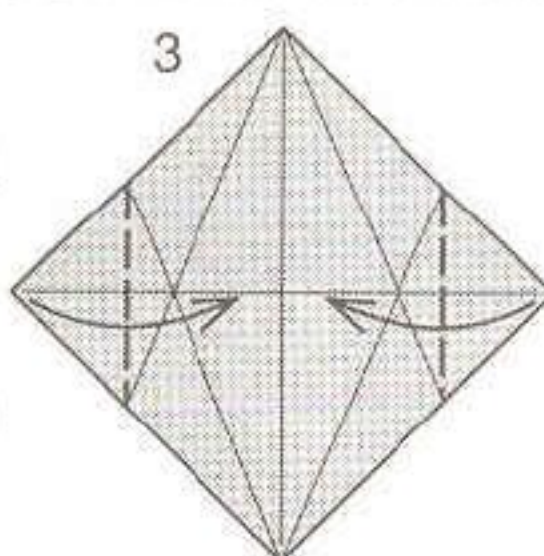
18.5cmのホイル紙がお勧め



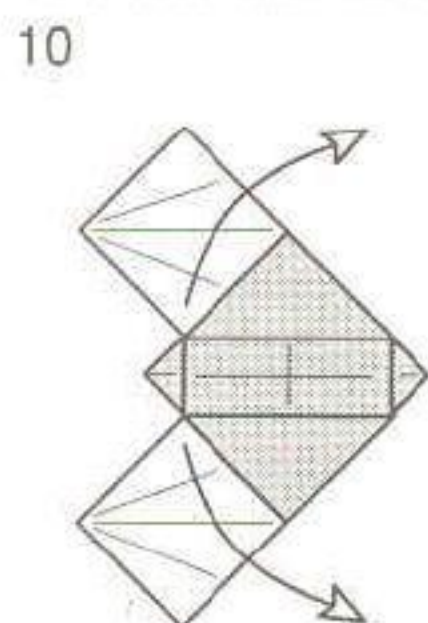
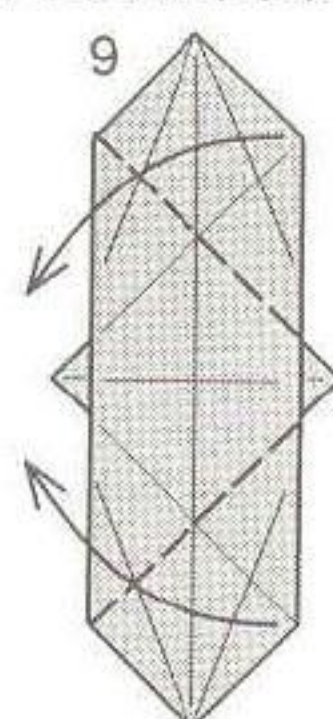
折り目をつける



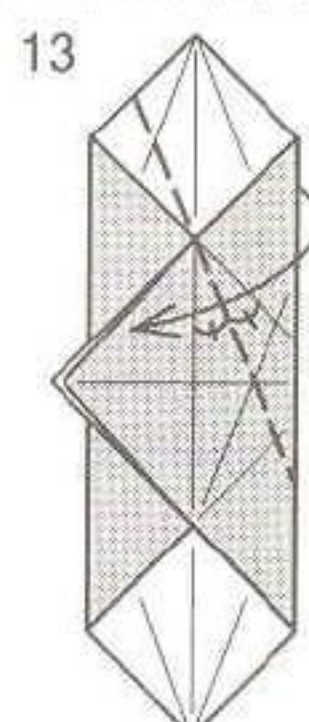
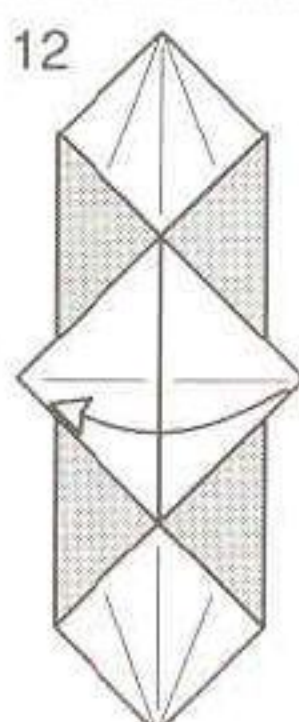
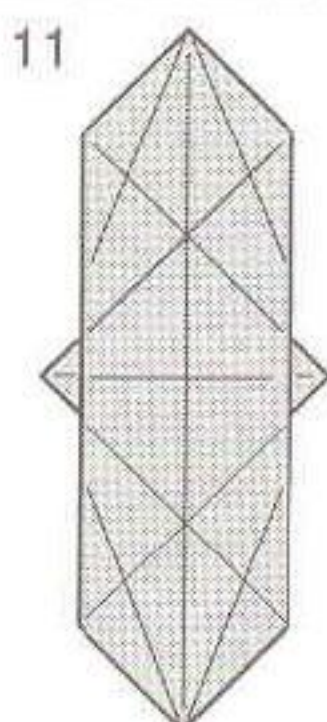
折り目をつける



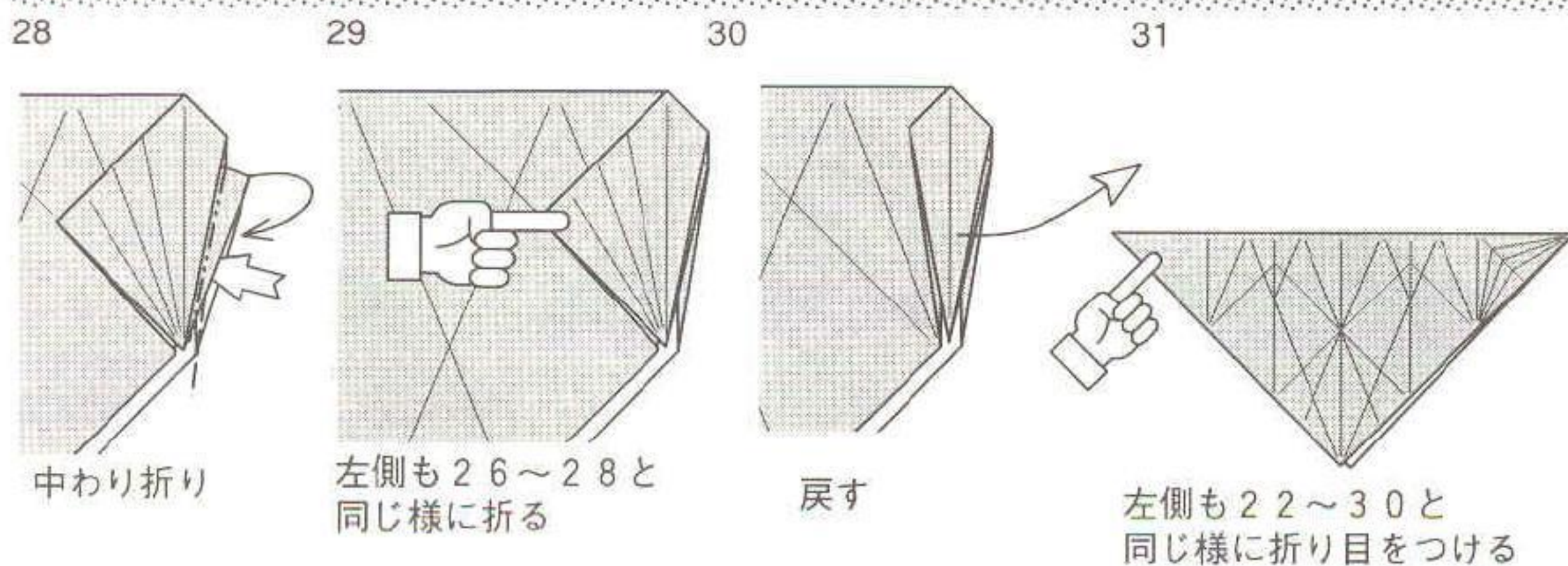
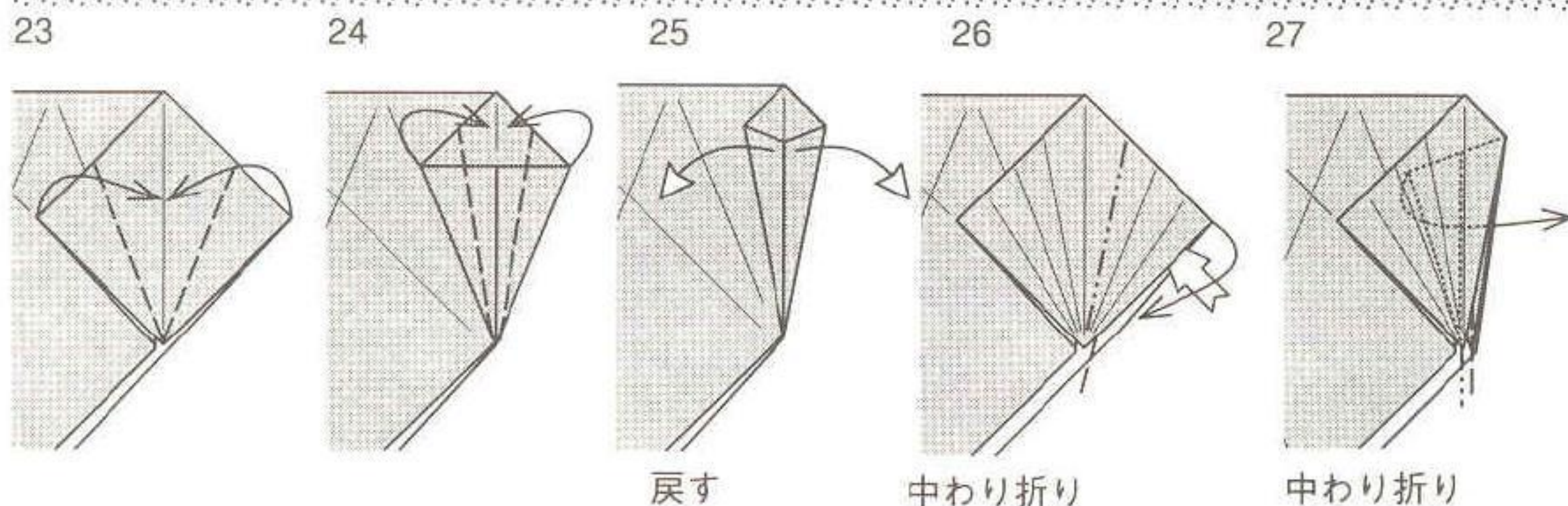
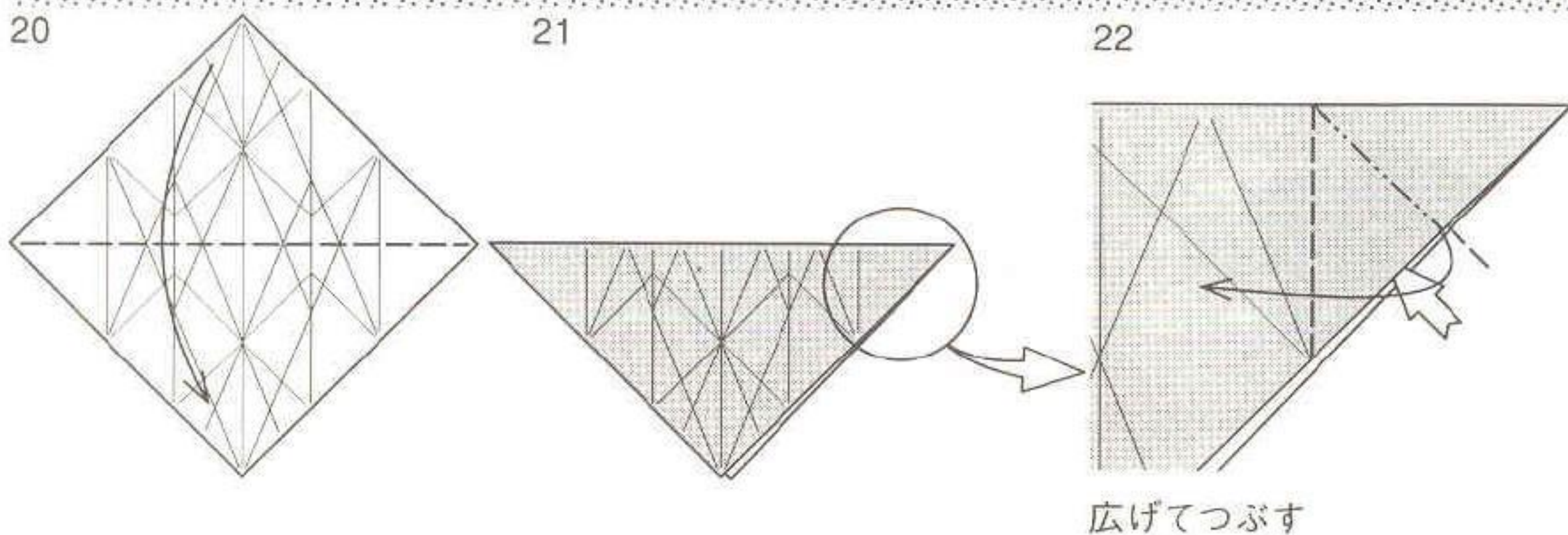
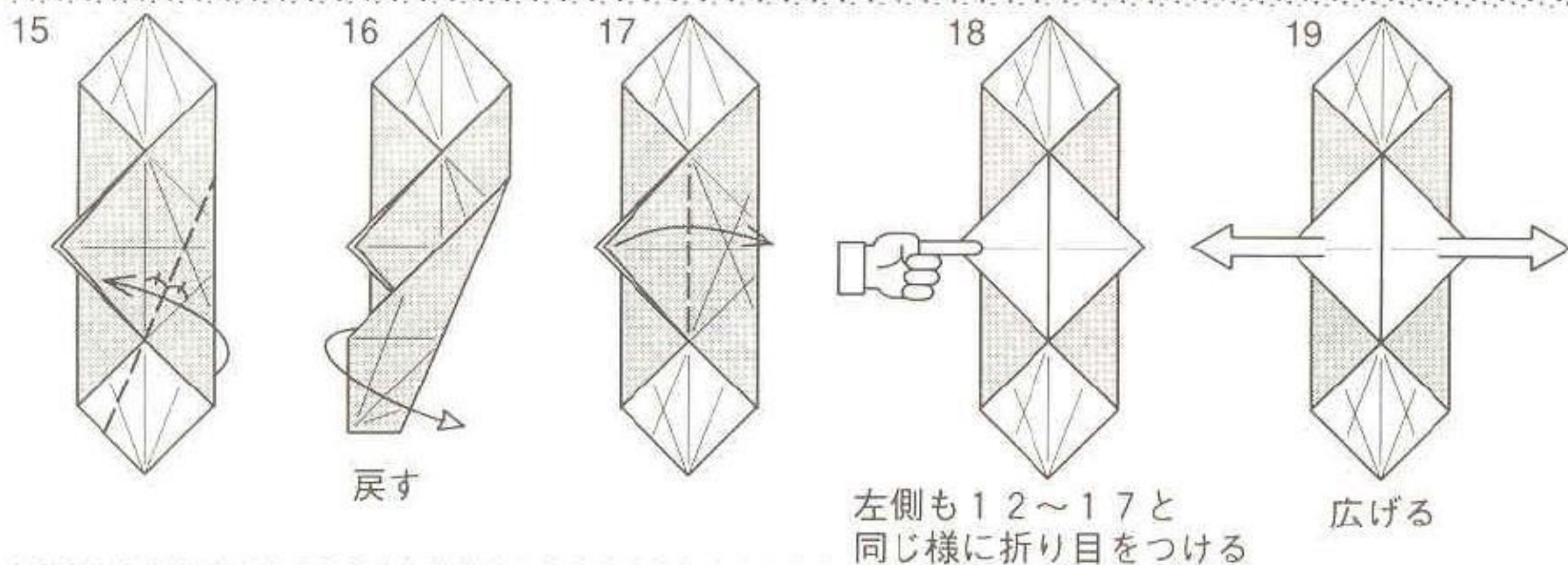
戻す



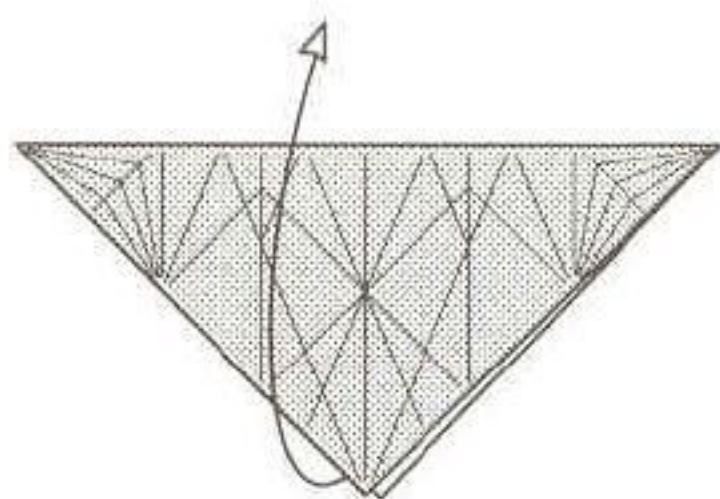
戻す



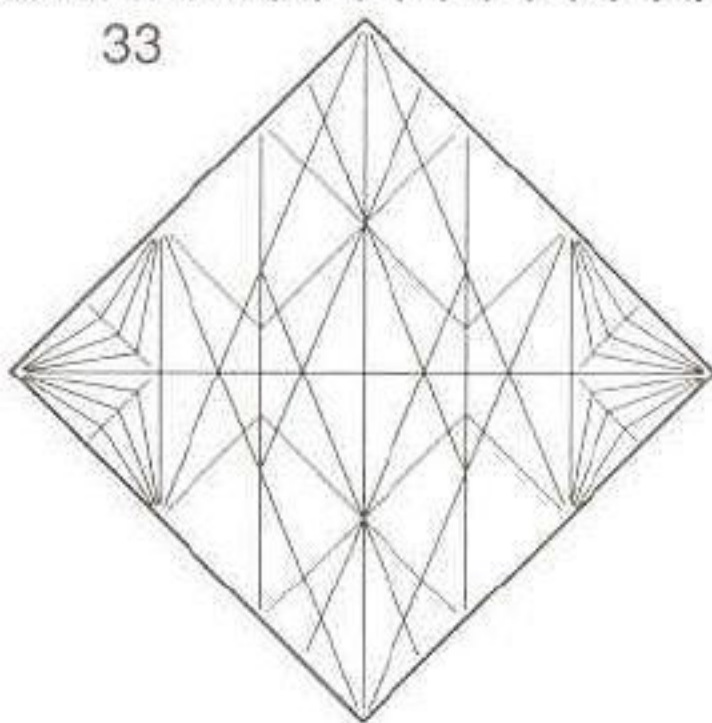
8



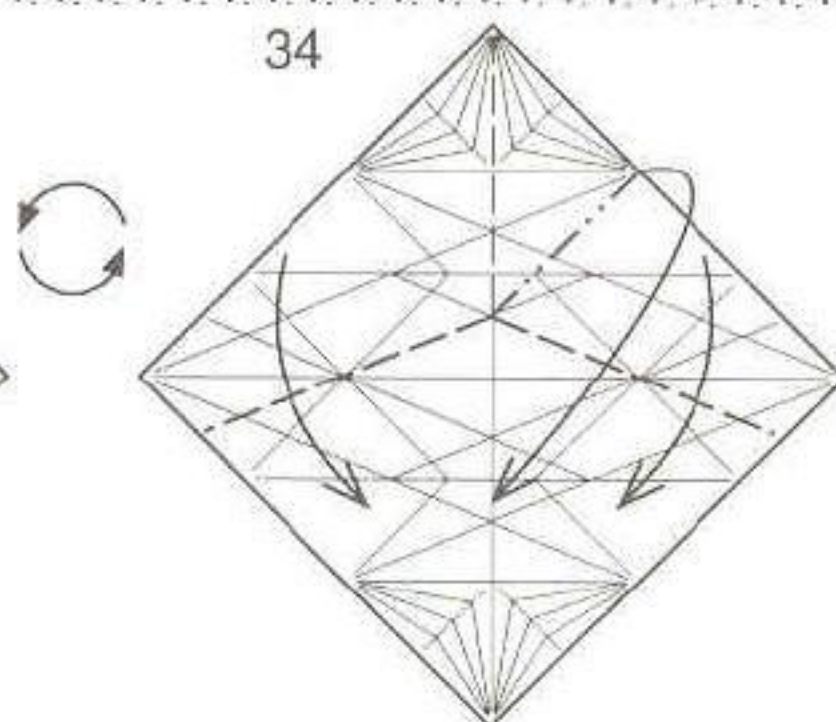
32



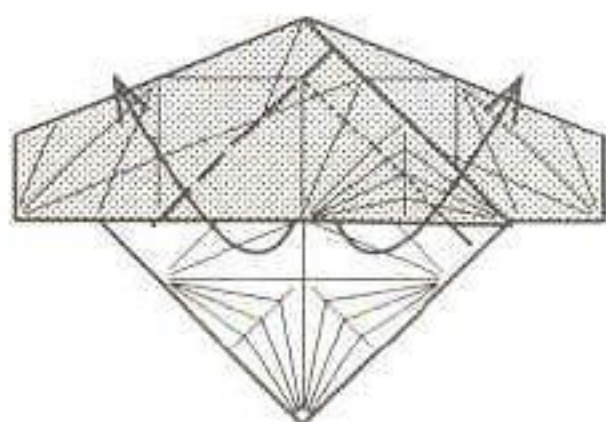
33



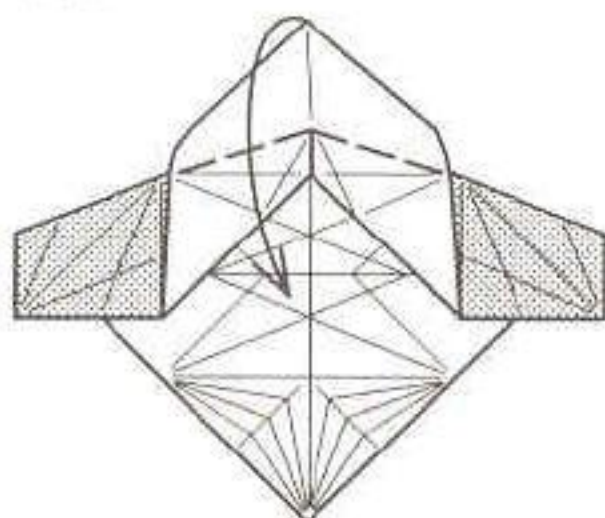
34



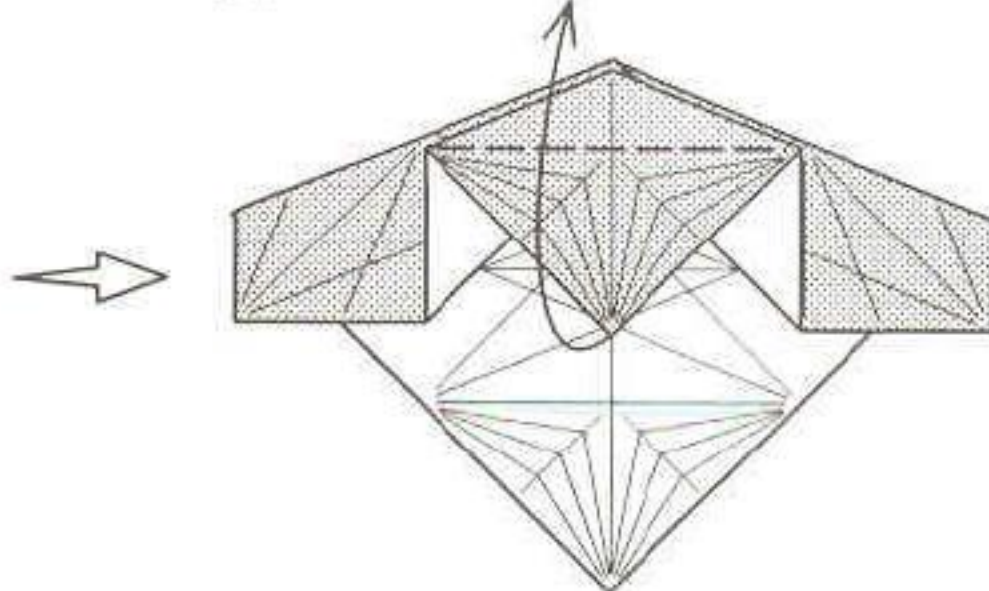
35



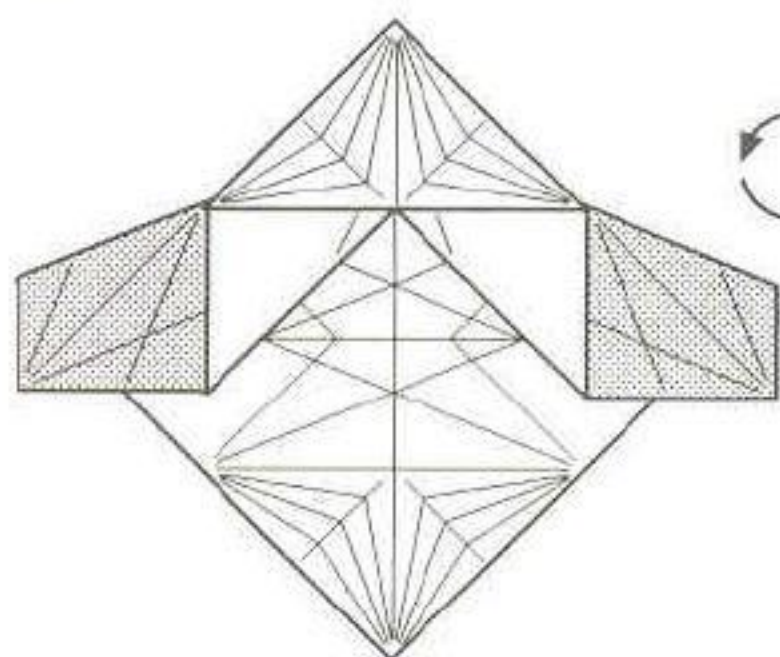
36



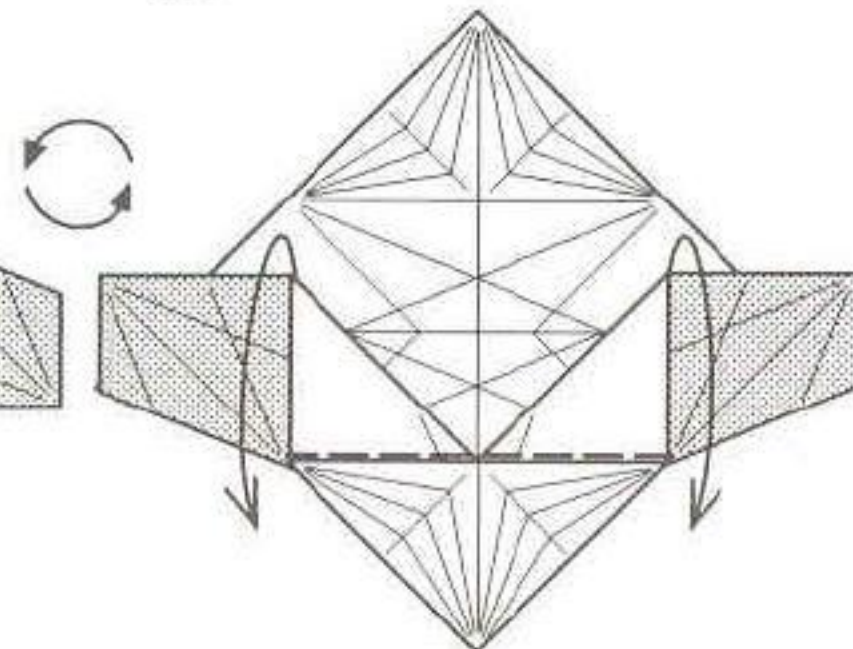
37



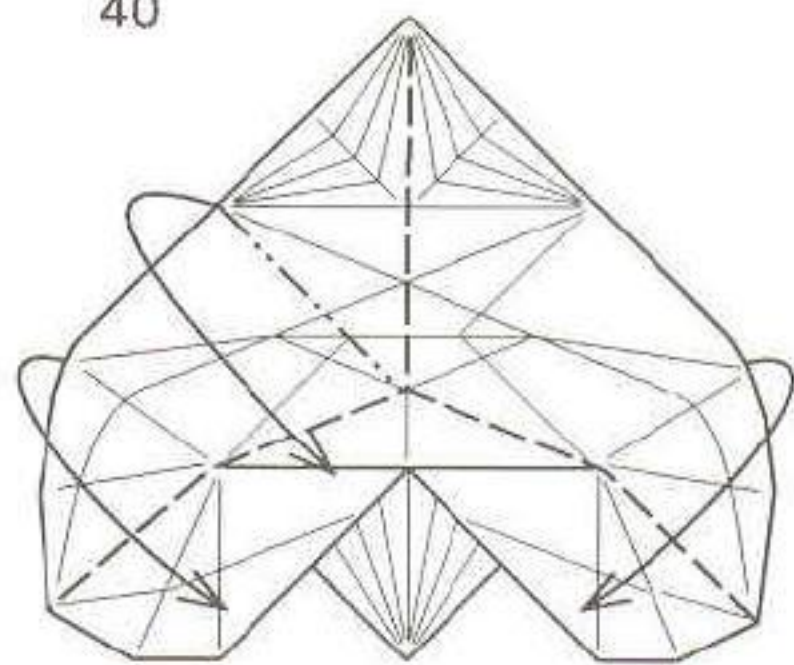
38



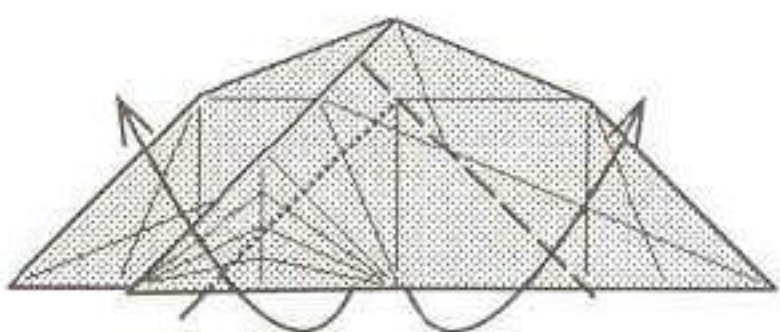
39



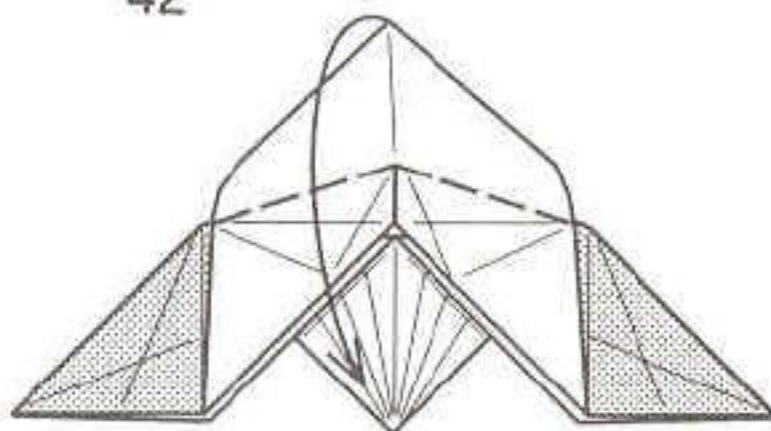
40



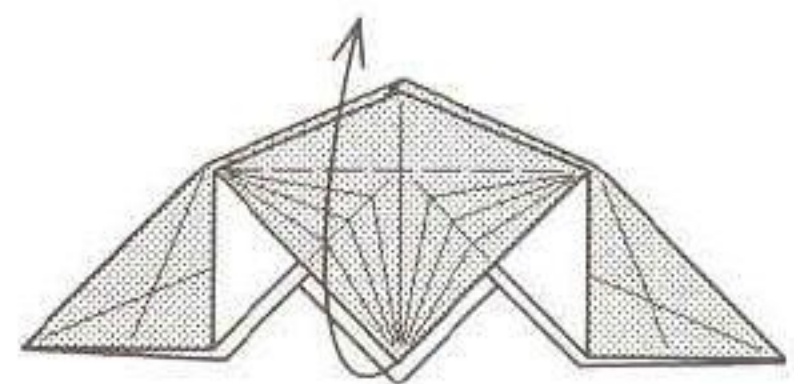
41



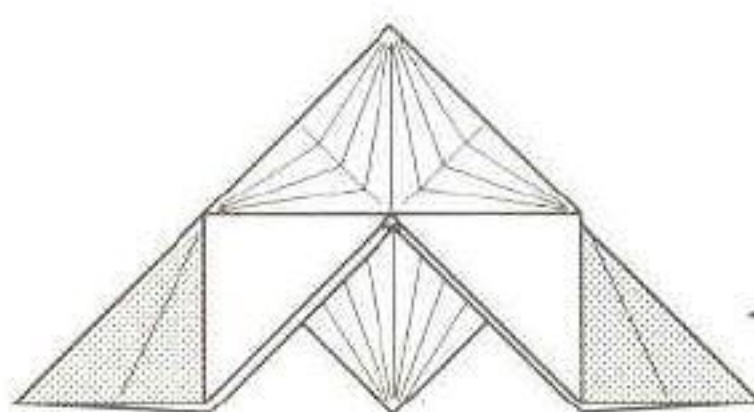
42



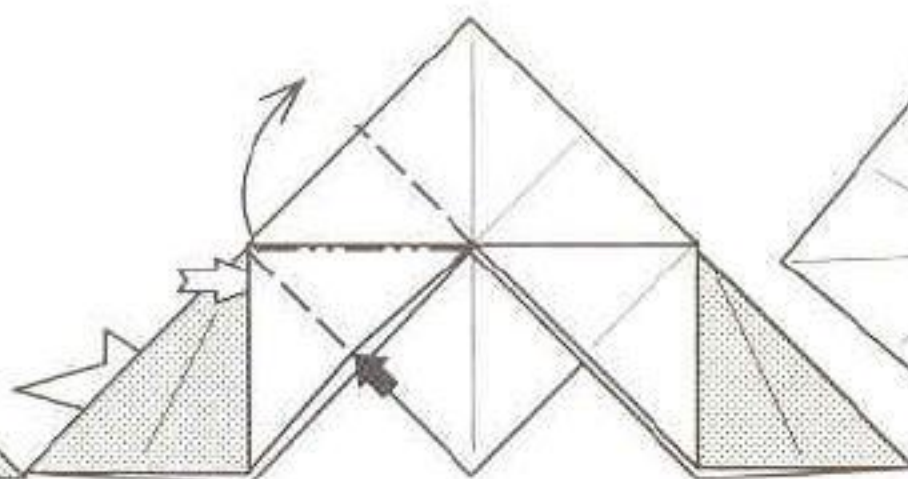
43



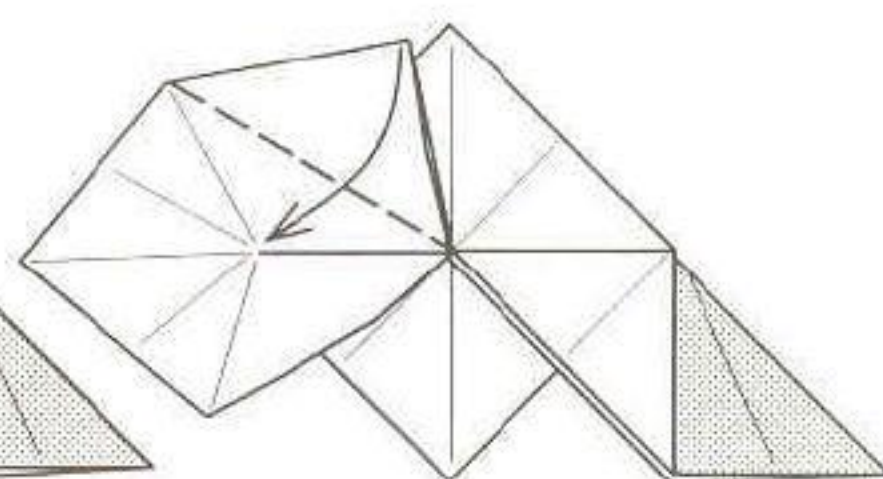
44



45

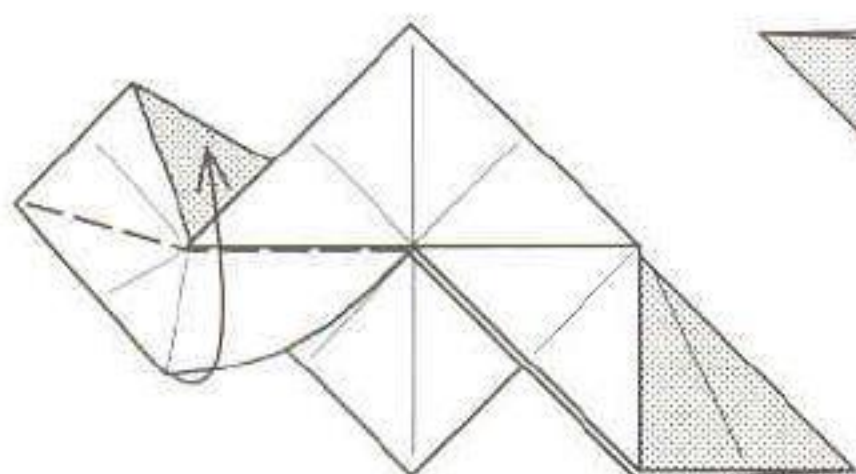


46

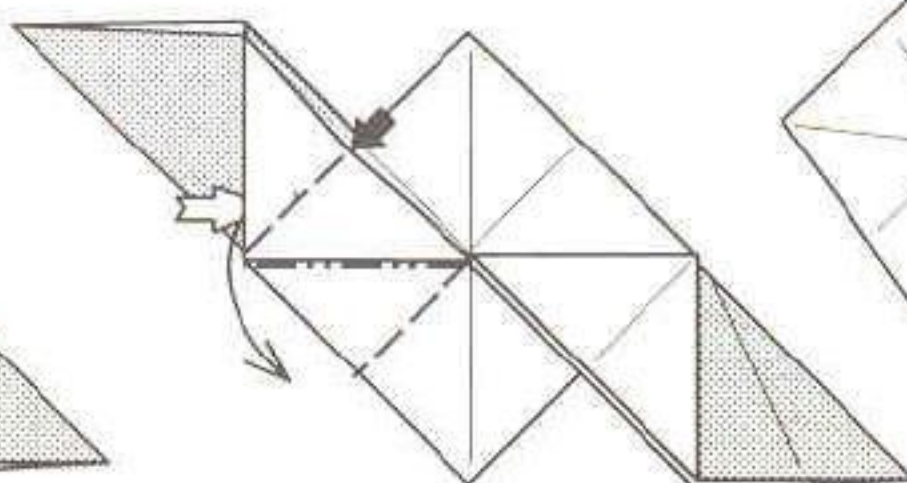


細かい折りすじ
は省略します

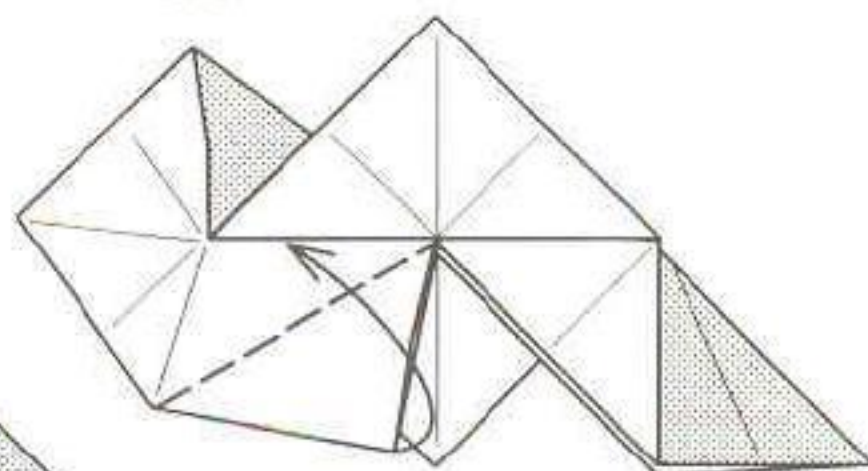
47



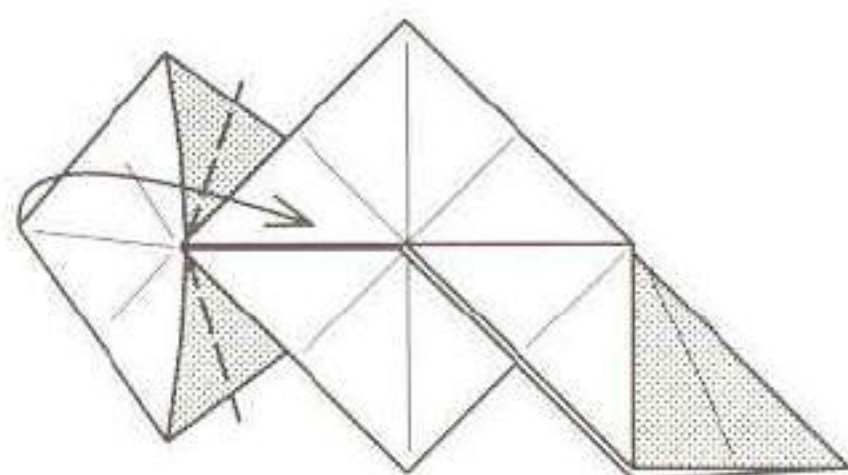
48



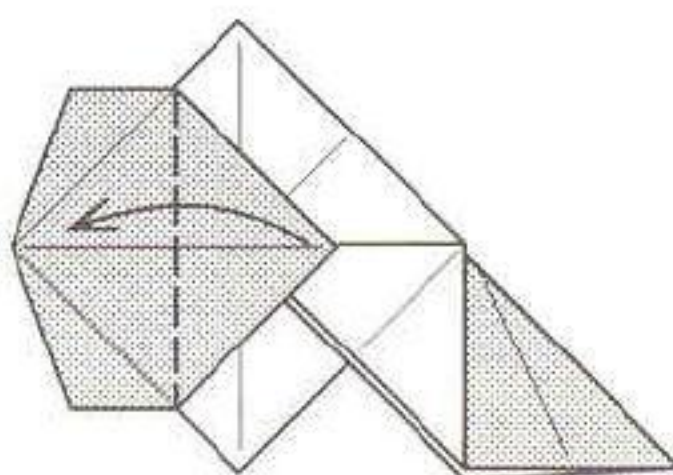
49



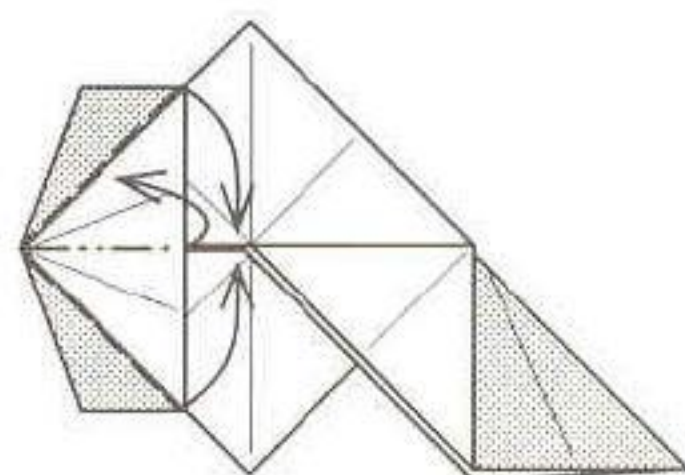
50



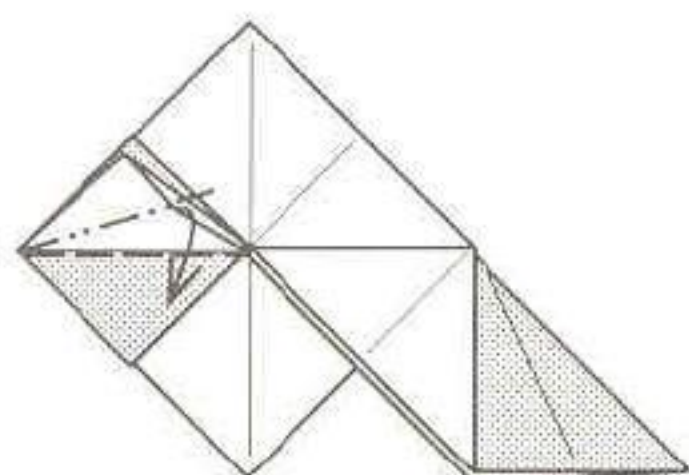
51



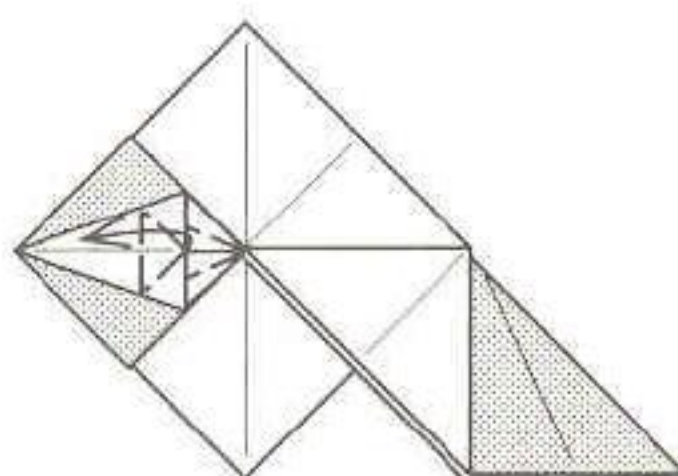
52



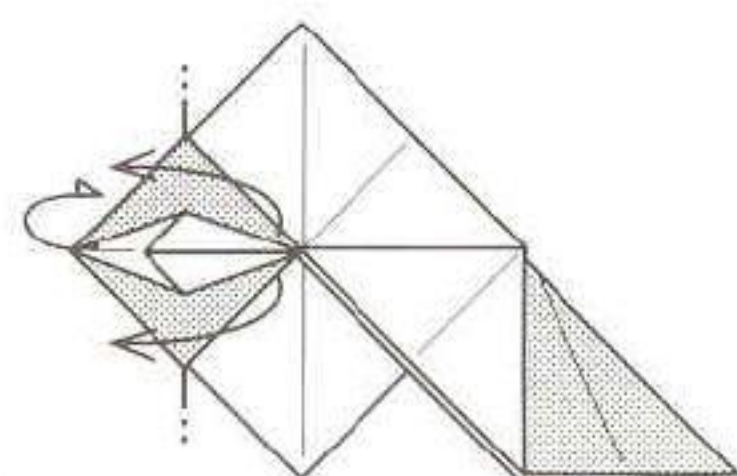
53



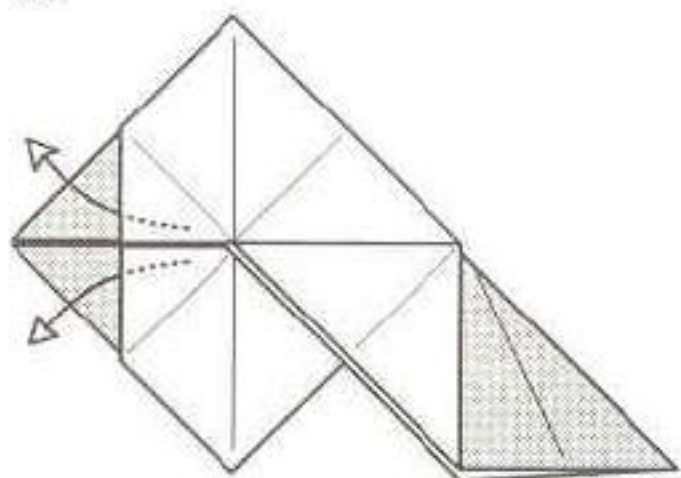
54



55

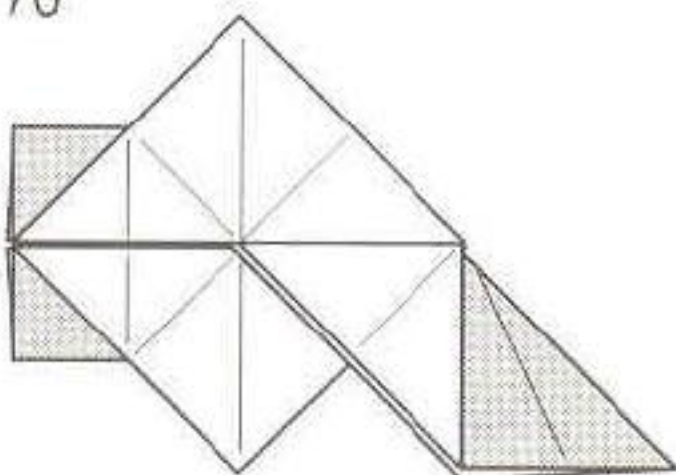


69

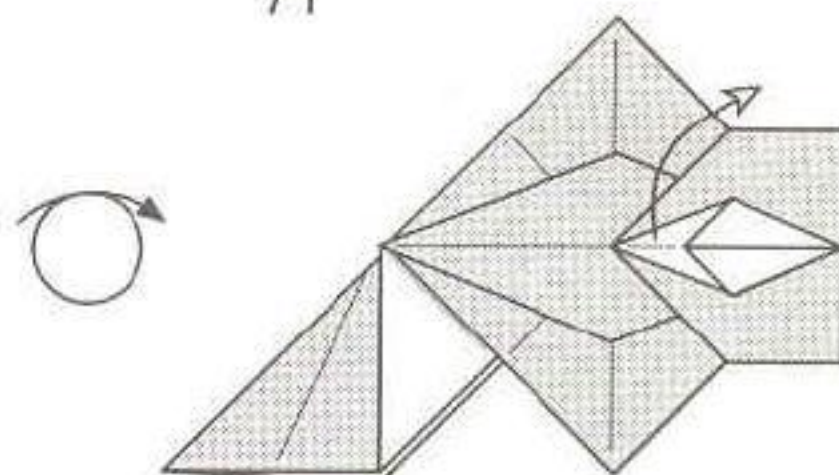


内側から引き出す

70

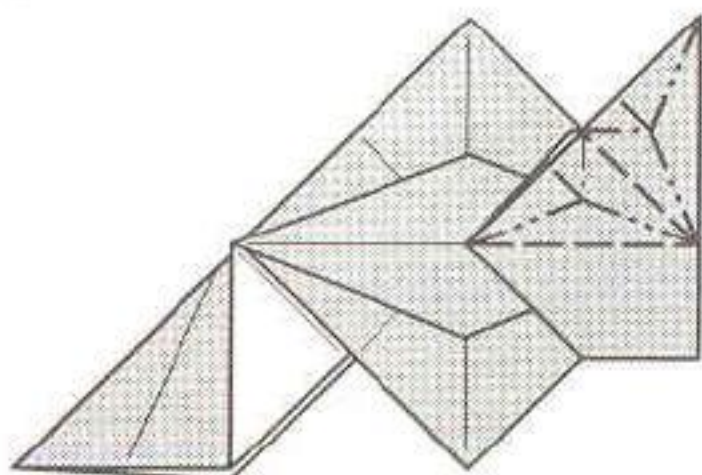


71



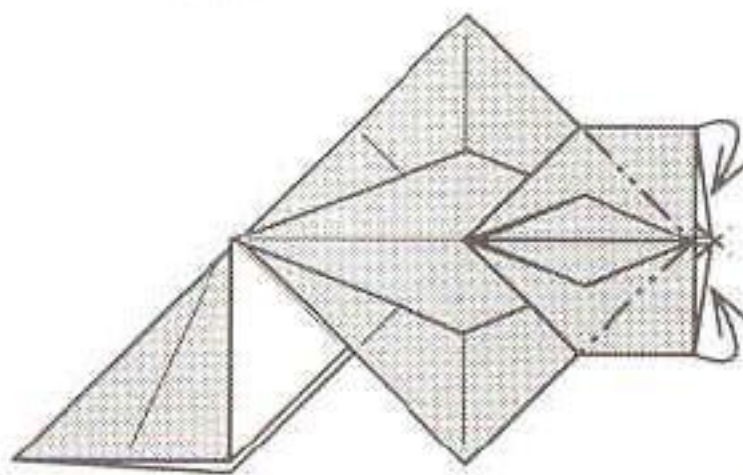
重なっている紙を戻す

72



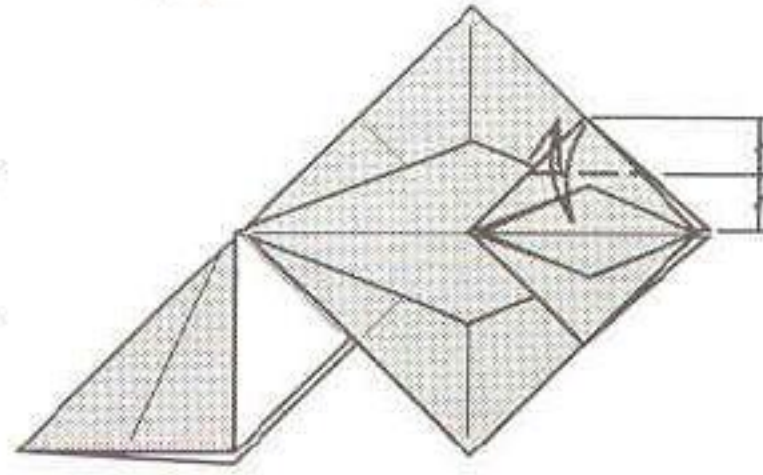
ツルの基本形でまとめる

73



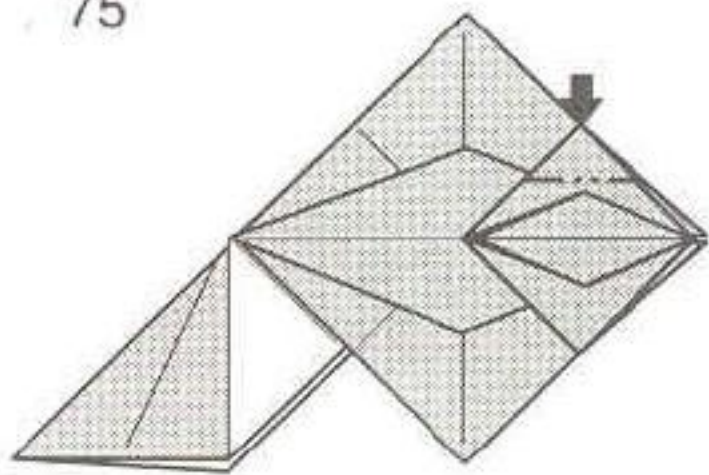
中わり折り

74



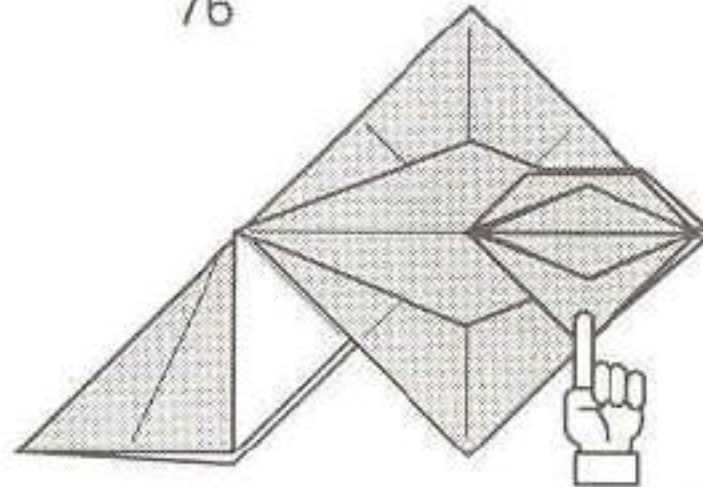
折り目をつける

75



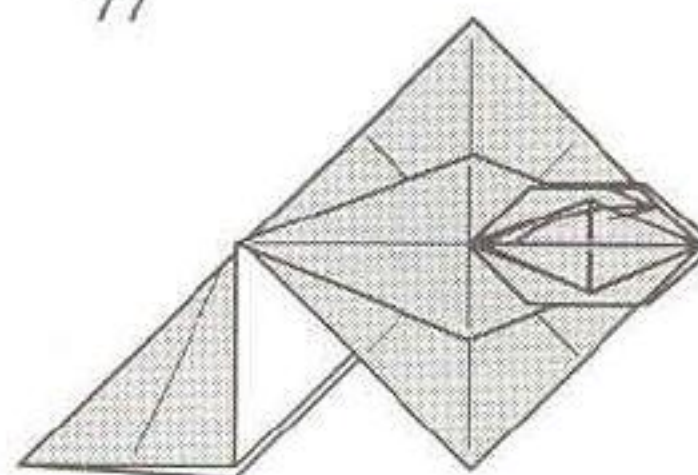
しずめ折り

76

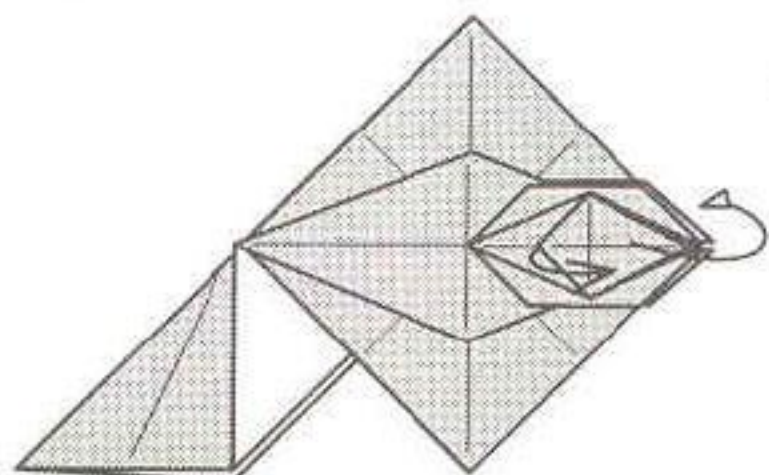


反対側も74～75
と同じ様に折る

77

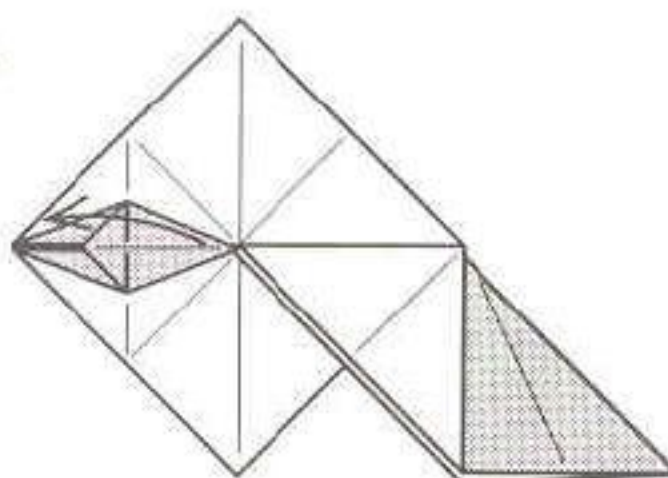


78

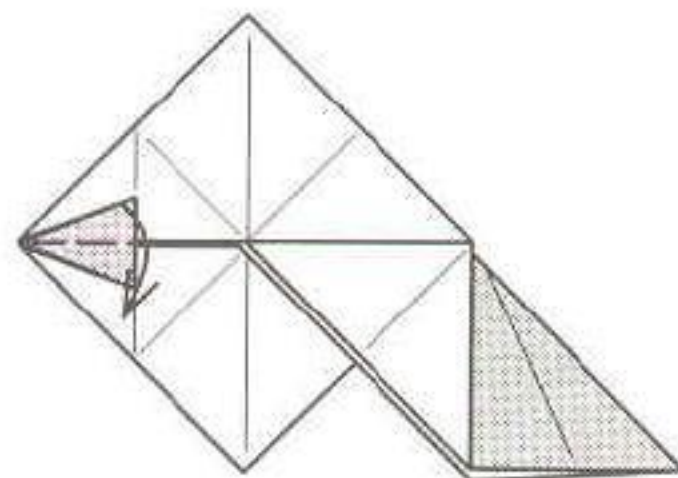


カドを裏側にすきまから
折り返す

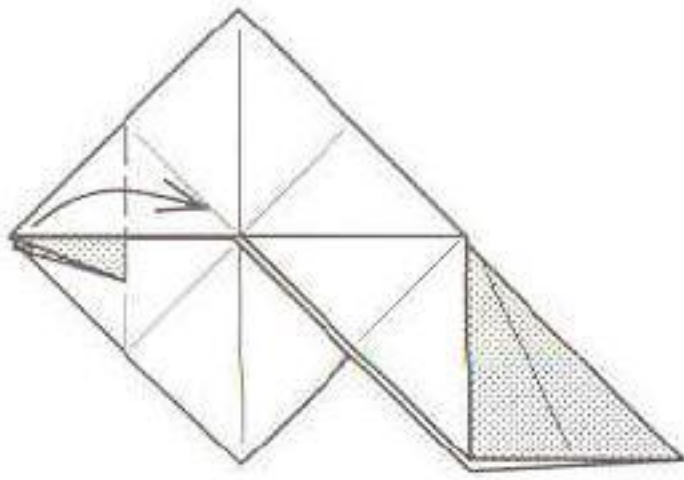
79



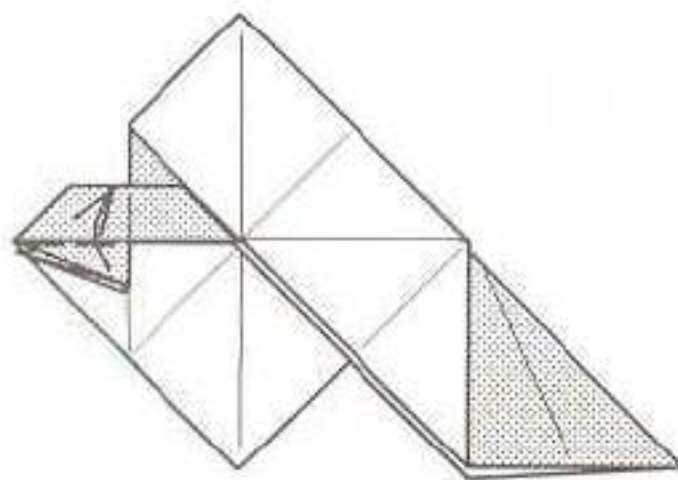
80



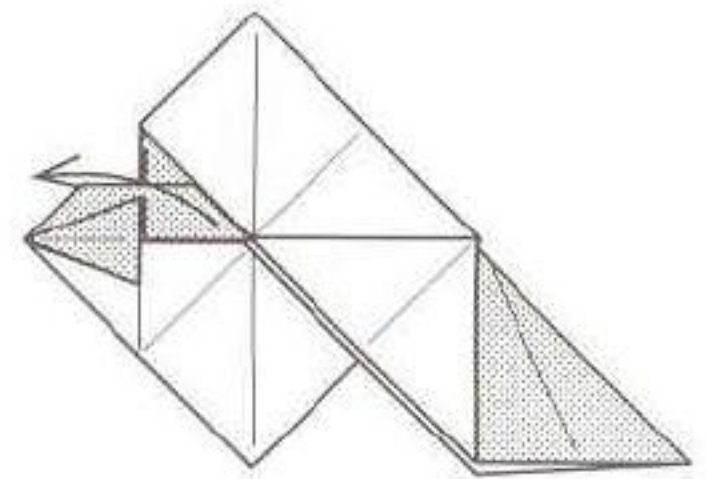
81



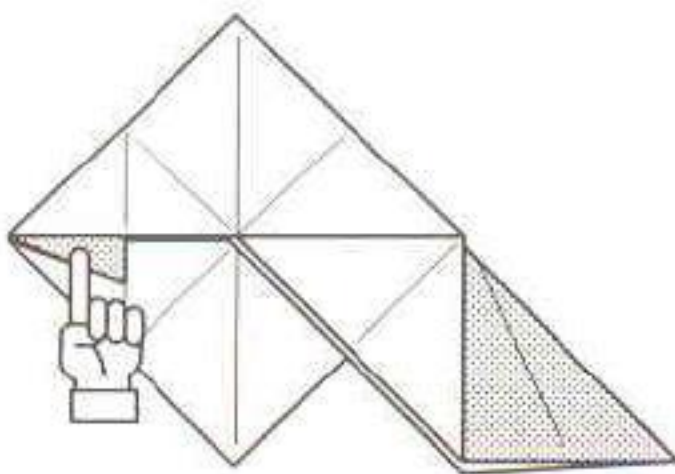
82



83

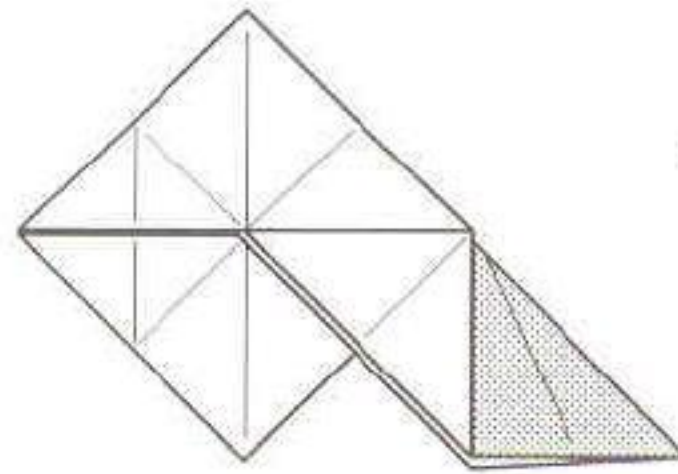


84

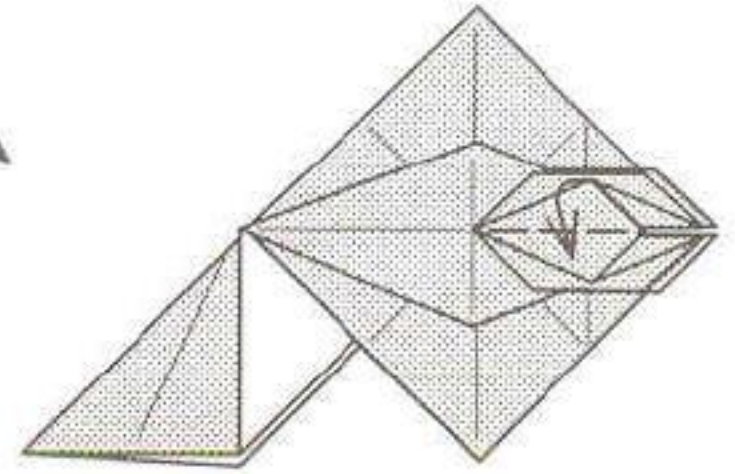


反対側も 80～83
と同じ様に折る

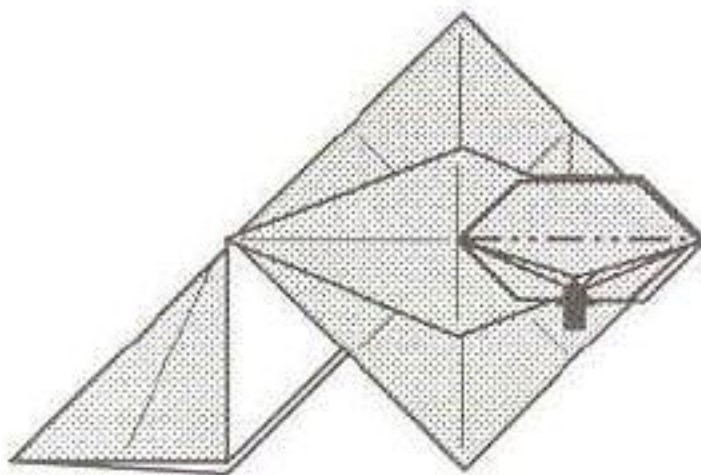
85



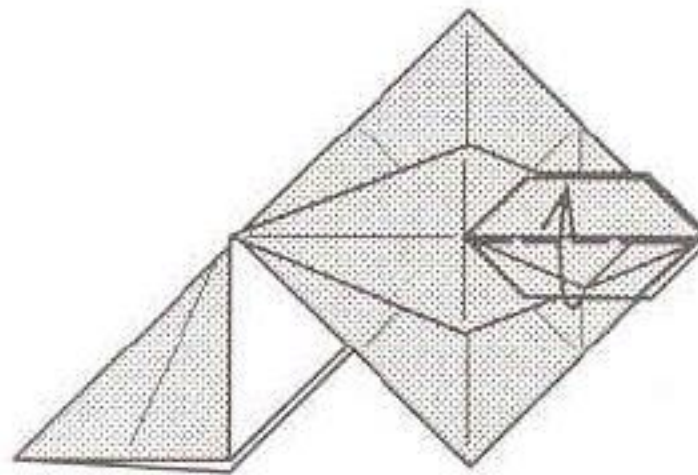
86



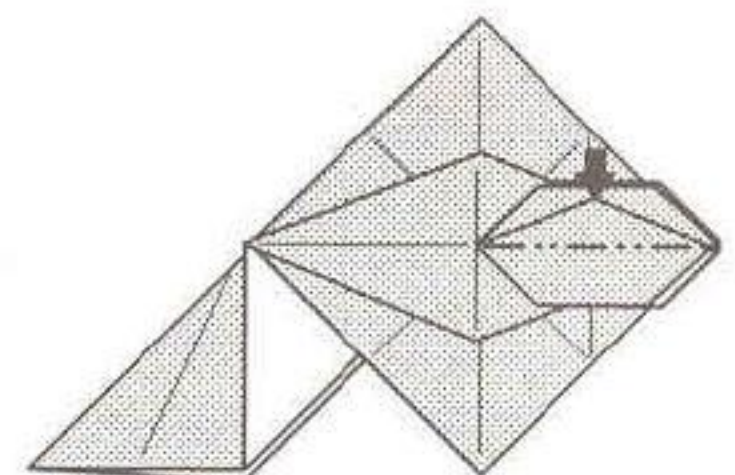
87



88

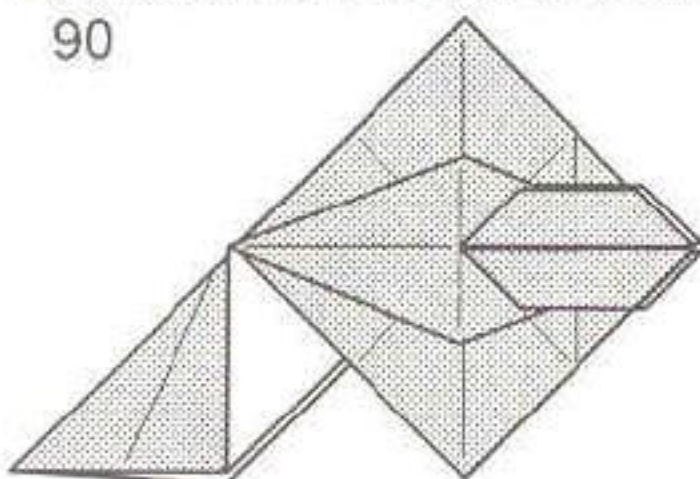


89

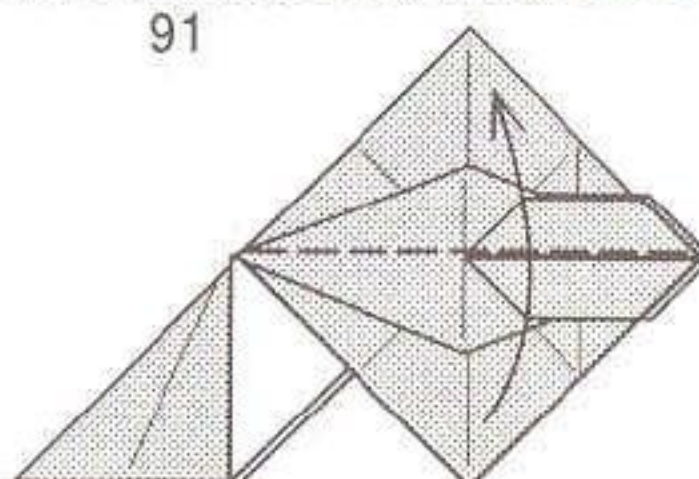


しずめ折り

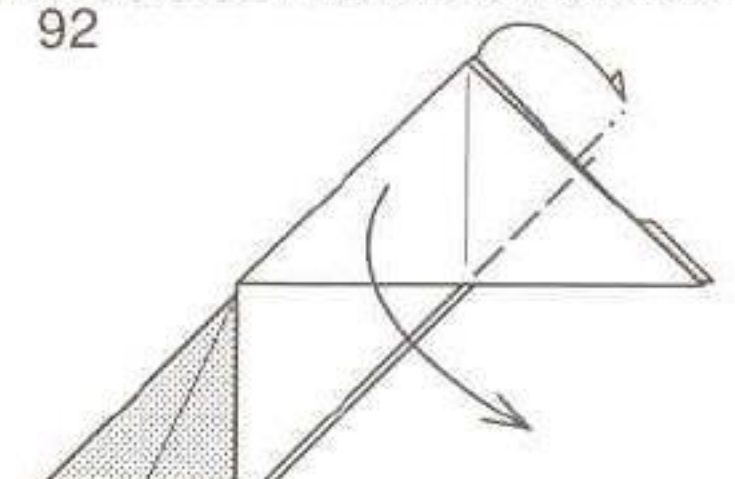
90



91



92



以下次号！！

ORIGAMI TANTEIDAN 4th CONVENTION TOKYO

7月25日(土)~26日(日)
東京・白山

第四回折紙探偵団 コンベンション



▲川崎教室では機関車トーマス。幅広い年齢層でうけていた。

恒例となった折紙探偵団コンベンションが7月25、26日の両日、東京文京区にある東洋大学白山校舎で開催された。東洋大学の校舎を借りての開催は今年で2度目になり、運営もスムーズに運び、参加者の評価も高かった。また、吉野基金での招待も今回で2度目、特に今年の招待者は大道芸の得意なジェレミー・シェイファー氏。全体会、懇親会と多彩な技を披露してくれた。

参加者と共に築いてきたコンベンション。皆さんいろいろな思いがあるようで、今回はアンケート中心に報告したい。

教室について

●時間が短すぎる。星1つでも高度な技術を必要とするので初参加の場合は戸惑う。教室の人数を小分けして同じ題でやってみては。講師の都合もあるでしょうが、希望した教室に参加がすべてできるようにお願いしたい。

○ごもっともなご意見ご希望です。次回の課題の一つでもあります。教室をお借りするのにも限界があって校舎の方はなかなか難しそうです。

●1時間ではなく1教室1時間30分くらいにして

○可能性があるので、次回に生かせればと思います。

●参加者のレベルを講師が過信しているのか、受講生は自分のレベルの自覚がないのか、運営がスムーズに行かない講座もあり。講師も折ることと教え

ることの違いを自覚してほしい。前川氏の変則用紙5本は楽しくすばらしい講座でした。

○教えることに慣れていないというか、インストラクターではない、作家性の部分でカバーと、理解していただけますか。

●休み時間がもう少しあった方がいい
●初心者用のクラスがもう少しあった方がいいと言われた。どうしても有名な講師に人気が集中するのでどうしたらいいか？

○次回はもう少し初心者向きを充実したいと思っています。

●折り図集がおそらく必要となるため、折り図集込みの料金がよい。四つ星でもさほど難しくないのでもう少し複雑な作品も。ウェットフォールディングなどもやってみたらいいか。

●ウェットフォールディングの様子を実演して見せていただきたい。

●古典も時間を多くとってもらいたい
●つきそいで来た親の居場所がないので受講しない場合つらいです。遠くからはるばる来た場合特につらいです。
○親子割引で参加していただけるとありがたいのですが。

●二時間作品が多すぎるし、難度の高いものが目立つ。各時間にせめて1つは★1ヶの教室が必要です。

○次回に期待して下さい。

●明るくて良い。大学の教室なので広々として気持ちがよい。

●ディスカッション/理論系統の物があっても良かったかなと思う

●創作講座もあれば良いと思う。

○そろそろ必要な講座と考えています。毎時開かれる、複数の講師による創作講座など。

●先着順でなく、何か他の方法はないでしょうか。それと、2限つづいての教室が多すぎて。

○教室申込については我々も随分と頭悩ますのですが、なかなか良い案が浮かびません。どなたかアイデアがあったら教えて下さい。

●作品と時間との無理があると思いますが、例えば7/25「バラ」は最後まで説明ができず、折り図もなく、手にとって見れる見本もなく残念。バラをととても楽しみにしておりましたので、書きました。

●良いと思いますが人気のあるものは2回していただければ有り難いのですが。

●レベルが合っていないくて足を引っ張る人がいるので…3時間授業もあった方がよい。

●難易度の設定を誰の基準で決めるか。
★5つちょームズをつくってくれ。

●広さ、人数はちょうど良いと感じた。難易度の高い作品は2日目に集めてあらかじめ予習してもらおうような工夫も必要では？

○複雑なシステムにならなければ可能だと思います。



▲あれ！布施さんが悩んでる。宮島さんの「ほうきに乘った魔女」の教室で。



▲女性らしい気配りと、優しさのある橘高教室。

- 時間が足りない。じっくり教えていただきたかったが、受講した講座はすべて中途半端(尻切れトンボ)だった。カリキュラムに工夫が欲しい。受講時にかたよりができる。
- それぞれ初めてで満足しました。全体的に見て花がなかった。
- 全体的に女性好みの作品が少なかったことは反省しています。

- 希望した教室に全部参加できてラッキー。早起きして良かった。
- 作品の種類以外は良かったです。受付が遅いと、自分の目的講座が受けられなかった。7月25日の馬(小笹先生)不本意で受講しましたが、とても気持ちよく楽しく完成しました。

~~~~~ その他の意見 ~~~~~

- 受付の要領の悪さが気になりました。初日、お金の徴収から間髪入れず、講習作品の展示もないまま教室受付を急がせて受付終了後に一時間以上間があいたのは不合理です。
- ボランティアだからと甘えるつもりはありませんが、皆さん一生懸命頑張っているのですが、1年に1度のことでなかなか手際よくできません。体験を生かして次回スタッフになって下さい。
- 親切にいてねいに指導していただき、講師、スタッフの皆様本当にお疲れさまでした。いくらファッションとはいえ、破れたズボンでの講師役はイヤデスネー
- 老若男女、協会が無く、おっと間違い。境界が無く、楽しめるのも折り紙の良いところと解釈してあげてください。
- 小学生のみの参加の場合、いくらになりますか? 4500円+2500円はキビシイのでは。
- 今年の場合は、4500円です。2000円の折り紙用紙がつくので、バランスとしてはそれほど悪くはないと思っていたのですが...

- 北條さんの司会がとても良かったです。
- 進行を考えた司会者を立てたのは初めてのことです。お褒めの言葉ありがとうございました。
- 講習作品以外の展示ブースをもっと多くして欲しかった。
- 声をかけて募ったのですが集まりが悪かった。次回の課題ですね。
- 9:30の受付に間に合うためには前日から来なければならない。一日目の講義の始まりが昼なので受付も遅くして欲しいです。
- この部分は先を読むのが非常に難しいところ、前年の経験を生かして、今年は早めたのですが。初日は時間が余ってしまい、2日目は反対に時間が足りなく、押してしまいました。
- 川畑さんがどういう発想の道すじでバルタン星人を創作したのかを書いていらっしやいました。新聞でも良いので読みたいです。オトシブミの続報も聞きたいです。
- ご期待下さい。川畑さん、鈴木さんに頼んでみます。
- 探偵団創作者の創作を始めたときど

のように(基本形とかヒントとか)考えて歩みだしたのか各人の話をお聞きしたい。新聞の北條さんのお話は興味深く楽しく読ませて頂いています。



▲最年少講師の安西真くん

- 当日まで折り図集に掲載されている作品がわかりません。プログラムに掲載・不掲載がわかるような表示があればありがたいのですが。
- 大変良いアイデアです。早速、次回に取り入れたいと思います。
- 今後地方への広がりが期待できるが、その核になってほしい。
- 今年の11月には折紙探偵団静岡コンベンションが開催されます。大阪でも来年の2月頃をめぐり、企画中です。
- 去年受けられなかった紙を染める教室、今年はなくて残念。クラス受付先着順を何とか他の方法を。
- "あっ、本にのっていた人だ""あっ、新聞にのっていた人だ"と、全くミスターで、"サインもらいたいけど..."とか思っていました。すごいメンバーが集まっておられるので、参加できて光栄というか、私自身は場違いというか、なんか不思議な気分でした。

■ 今年のゲストについて ■

ゲストのシェイファーさん



- 楽しい方。すばらしい折り方で特に帽子になるあの作品はぜひ習

- 得したいです。
- 作品、パフォーマンス共にとてもすばらしかったです。大変たのしませていただきました。
- ビンゴゲームの時一人で寂しくジャグリングしていた。誰か声をかけてあげればよかった。
- 静から動への発想に興味を持ちました。
- とても楽しかった。日本にはない作品。作品展示や会場にもっと気を配れたら良かったのではないかな。
- 西海岸の人は全員がああなのかと勘違いしました。文化が変わると作品もこうなるのだったらもっと海外の作家を見てみたい気がします。
- フラッシャーハットの講義が無くったのは残念。ぜひ新聞に折図を。

今後呼んで欲しいゲストは?

- フランスのArtisticな作家。=前川淳
- JohnさんやLangさんをぜひ。
- 工程数が少なくパズルの要素を含んだ珍しい作品を多く作っている作家を呼んで下さい。=山下明
- 「をる」休刊中の現在、海外作家の情報は一般には伝わりにくいのので、次回も気鋭の作家を招待して下さい。
- おりがみ誌上に載っていたバットマンとジョーカーを折った人(たぶんイタリア人)。=西村修
- 欧米ばかりでなくアジアもよいのでは。
- ハルさん=島村麗子

コンベンションレポート

178名が参加。来年の10周年、第5回大会に向け、盛り上がりを見せた今大会。熱い2日間を経験したメンバーの方に感想などを書いていただいた。

息子にひっぱられて ― 辰巳惣一郎の母（宝塚）

■折り紙が大好きな息子にひっぱられて参加しました。3、4才の頃から折り紙で遊びだし、8才の今も折り続け、このまま大きくなったら「どんなかなあ〜」という興味もあり、折り紙もさることながら参加している人に対しても興味がありました。年齢の巾の広さに驚きましたし、待ち時間にも折り図をみてせっせと折る姿、折り紙を囲んでもり上がっている青年達を見て、「みんなホンマに好きなんやなあ」「息子の未来の姿かなあ」とか感じました。宿でいっしょになった方が「小学校の高学年から、

中学ぐらいになったら折り紙が好きだと他人に言われるのをイヤがるようになった。でもここに来て、なんか自信を持ったみたい」と言っておられるのを聞いて、「フム、思春期はそんなもんかなあ」とか思いました。

■付き添いの身としては、せっかく東京に行ったのにどこにも行けなかったのは少々もったいない気がしないでもありませんでしたが、久しぶりの中身のつまった時間と子供の「楽しかったなあ、お母さん」の笑顔で、「そっか、折り紙しに来たんだ」と考え直しました。

■本人の希望が強く、「やめときなさい」と言えなかったのも、技術的に無理があり、ご迷惑をおかけしたと思いますが、申し訳ありませんでした。「シシ神様」を教えて下さった、川畑先生、「トナカイ」を教えて下さった神谷先生、本当にありがとうございました。頭の上にかざって寝ています。最後に、諸先生方、スタッフの皆様お世話になりました。本当にありがとうございました。



▲以外に女性も多かった神谷さんの教室。

「すごい時代になった」 ― 逆瀬川貴史（横浜）

■「シシ神様」っていったいナニ？「フェイスハガー」？聞き覚えのあるようなないような。（小生、映画をロードショーで見る習慣がございませぬ。）「フラッシャーハット」とは？思わずランダムハウスに手を伸ばしました。「信号手の帽子」？「下水管掃除夫の帽子」？シェイファー氏の挨拶でやっと判りました。でも初日の教室だったら……。〔をる〕や〔探偵団新聞〕の記事は記憶に無かったのですよ）当日まで？？？のプログラムでした。

参加も3回目になるので（韻を踏んでしまった）、望みの教室を確保するためには早めの到着が何より肝心、と。

会場は若かりし日に4年余通った勝手知ったる場所。9時過ぎに着いて、昨年と同じつもりで階段を駆け上が

り……。受付が無い！？昨年使った大教室の場所を思い出して覗き込むまでに、1階と2階とを往復してしまいました。慌てると碌なことはありません。それにしても、薄暗い教室に順序よく並んでいた約30名の早起きさんたち。明かりもつけず……。暗かったですよ。

■「すごい時代になった」初日、2時間ぶち抜き「弥勒菩薩」に挑戦。人物像はあまり好んで折ることはなかったのですが、あえて挑戦。しっかり折り図があったので、みんな黙々と折ります。星4つに来るくらいの腕自慢だから、図面さえあれば何のその。

こうなってしまうと、北條高史講師もなんだか手持ち無沙汰。思い起こせば2年前。あの前川氏が演じた「踊

る折り紙講師」。彼を動とすれば、今回の北條氏は静の教室。生徒の手元を覗き込みながら悠々と室内を彷徨する講師でありました。



▲川畑さんの教室はとても丁寧だった。

■ところ

で講習中に折り図に一ヶ所のミスプリントが発見されました。

「ここってclosed sinkじゃないんですか？」生徒から上がった声に訂正する北條氏。

つづけてしみじみと言。

「しかし、open sinkとかclosed sinkなんて言葉が何の説明もなく通用する……すごい時代になったものです。」

同感です。かつては「しずめ折り」でした。そういえば「中割り折り」を「くちばしのように折る」なんて書いた本も昔はありました。

きつと何年か後には「前川折りで5本指を作る」とか「川畑折りでヒレを仕込む」とか「16分割の一郎折り」なんて表現がまかり通るように……なりませんね。

■ところで、教室参加者には折り図（展開図）が配られました。参加していないと手に入らない訳です。それでも欲しいとなると、文明の利器「複写機」の出番となるのですが、これは皆さんどうお考えなのでしょうね？小生自身は、折り図をコピーするときいつも迷ってしまいます。特にアマチュアの間で無断コピーするのは作者の好意を一方的に要求しているような気がして……。印税といった「金銭」の問題ではなく「好意」の問題だけに、かえって悩んでしまうのです。



▲「16分割の一郎折り」の木下さんの教室風景。

いきなりスタッフ

—— 斎藤 隆 (東京)

■探偵団の例会に初参加したのが5月。それから2ヶ月ほどたってコンベンションという大行事に初めて顔を出そうと思い、雰囲気あれこれ想像していると、突然、前川氏のバッチ作りを手伝うように言われた。新参者の私がいきなりコンベンション準備の一端に関われ、しかもあの前川氏のお手伝いである。戸惑いと不安が一気に心にのしかかった。

■そして手伝い当日、私と同じく手伝いに来た白岩さんも加わり、バッチ作りが始まった。やること自体は前川氏の言葉どおり「内職」そのもので、ともすれば退屈になるところを、前川氏から色々と興味深く面白い話を聞けたりしたので長時間の作業も苦にならなかった。

いよいよコンベンション初日。東洋大学に来てみると既に人がいっぱい。驚く。受付作業を手伝い、午後からいよいよ本格始動。

■まずは講義から。富山大学の鈴木邦雄教授によるオトシブミの折紙の話は、大学時代、講義といえたいて眠っていた私でさえ夢中で聞き入るほど興味深いものでした。また、シェイファー氏の作品は、飾るのではなく動かして楽しむものばかりで折紙のもつ可能性の大きさを知ることができました。ところで、あの「ウーラー」というかけ声には一体どんな意味があるのでしょうか。

■初日の夜は文京区民センターで懇親会。まず食事ですが、当然のごとく寿司はあっという間に無くなり、出遅れた私はしかたなくサンドイッチをほおばりました。

そして今回の目玉といえる和久さんの手品とシェイファー氏の大道芸対決。幸運な事に私はお二人の芸にお手伝いとしてステージにあがることができました。特に手品でやったストロー曲げ。皆さんは笑っていましたが、あれは本当に凄いですよ。間近に見てもタネが分からなかったんですから。もちろん、シェイファー氏のジャグリングも素晴らしい技術でありました。ビンゴゲームでは、なかなかビンゴにならず運の無い人間だと思っていましたが、終わりの方で当てた私を含む人々は賞品を2種類もらえたのもしかしたら運が良かったのかも知れません。

■2日目はまず教室受付の手伝いから。難解な作品から予約が埋まっていくように見受けられた。さすが折紙好きの集まる会だけのことはあると妙な関心を抱く。宮島さんの「ほうきに乘った魔女」の

ジェレミー・シェイファーさんの通訳を担当していた塙です

—— 塙 奈都子 (神奈川)

食事編

ジェレミーとお昼ごはん会場近くのスーパーに買いに行きました。

すると、彼は、「僕は、ベジタリアンなので野菜類しか食べないんだ」と言いました。

私は、ふ～んそんなものかなあと思いましたが、彼の買い物の様子を見てびっくり。彼のお昼ごはんは、アボガド、バナナ、リンゴ、豆乳、豆

講習会では、1時間程で折りあげてしまう子供がいて驚く。この様な子供がいる限り、難解でマニアックな折紙作品が減びることはないだろう。

今回初参加してようやく雰囲気が分かったコンベンション。これだけ多くの折紙好きの人達とふれ合える機会をもてただけでも感動である。次回も是非参加したい。

1500円は激安

—— 吉田圭介 (奈良)

■講習を受けたい作品がバッティングしたり、逆に受けたい作品が無かったりすることはあると思います。大きく分けて易しい作品(1コマ)と難解な作品(2コマ)に嗜好が分かれるので、いっそ全体講演を二日目午後に行えば、初日、二日目とも2コマ×2で、難解な講習が分散され、その分易しい講習も分散されているのではないのでしょうか。探偵団の意向が「易難両方を体験してもらおう」というところにあるのなら別ですが。

■全体に難解な作品が多かったと思います。参加者を見渡せば、半数以上が年配の人またはご婦人で、それらの人が満足できたラインナップだったかどうか気になりました。講義自体は作品の難易度に即したレベルの講義をされていて、非常に分かりやすかったと思います。(ツルの基本形が分からない人に丁寧に教えている姿はさすがだと思いました。)私は理論好きなので、今回川崎さんしか理論講習が無かったのは少し寂し

腐・・・。

アメリカでもいつも豆腐を食べているとのこと。

日本に来てもお寿司は、かっぱ巻きしか食べられない彼なのでした。

性格 (キャラクター) 編

折り紙アーティストと大道芸人として活躍しているジェレミー。

大胆なパフォーマンスをみせてくれる彼ですが、普段は、意外におとなしくてどちらかと言ったら引っ込み思案といった様子。

ところが、ひとたびパフォーマンスをはじめると、人が変わったようにエンターティナーになるのです。まさに、水をえた魚、これぞ芸人といった感じです。小さな子供たちに囲まれてはずかしそうにはにかむ顔とパフォーマーとしての大胆な顔と二つの顔を持つ彼なのでした。

かったです。

■折り図集。あれほどの内容で1500円は激安です。発行部数を考えると2500円にしてもおかしくないと思います。しかし一般には、本一冊で1500円は高いという印象を受けるでしょう。もし次回以降更に増頁するようなら、いっそ2冊に分けてしまえばどうでしょうか。(一般向けとマニア向け、各1000円) 装丁に凝る必要はないと思います。あと作家の方々が編集後記のような形で巻末に一文添えれば、一層親しみがもてると思います。

■どの作品も素晴らしいのですが、個人的に気に入った作品を挙げます。北條氏の弥勒菩薩は、一般に折紙では人物像はデフォルメされることが多いのに対し、蛇腹折りを使わずに頭、体、手足がバランス良く折り出されていて感心しました。アレンジが可能な点など、大きな可能性を秘めた作品だと思います。同氏の航空便も気に入る、折りまくっています。山梨氏のゴジラ達はフィギュアと見間違えるほど造形が見事で、折り手順も明快な良作でした。

■懇親会は、今の人数では、場所、広さ、形式(立食)、メニュー等どれもほぼベストだと思います。宿泊も相互の交流を図れる形式になっていて、地理的条件も含めこれもほぼベストだと思います。ただ、初参加者や海外招待者に対し、団の中心メンバーがもっと積極的に話しかけたほうが、団への敷居を低くし、好感を持ってもらえるのではないのでしょうか。例会等で頻繁に会っている人達は少し我慢して、見知らぬ人へ話しかけては如何。

芯がある

前川 淳（東京）

定番となった川崎敏和さんの講義「折り紙の幾何学」では、新しい概念である「芯」に関する説明がありました。平坦に折り畳まれた多面体において、すべての面が重なり合う領域がある場合「芯がある」とし、その領域がない場合「芯がない」と定義します。円を内接させたり交差させたりすることによって設計される折り目には芯があり、レンガ折りのような「平織り」には芯はありません。「芯が一本通った作品だ」なんて軽々しく言えなくなりました(?)

夜通し折り紙

西川誠司（埼玉）

懇親会を終え、地方から集まった人達は旅館へ移動（宿泊者は50名を超えた）。大部屋「大和A.B」では、ひと風呂浴びて飲み出す大人を後目に、コンベンション折り図集を見ながら黙々と折り続ける子供たち。そして神谷・木下両君のごみ箱（失礼）披露が始まった。私も経験あるが、試作品などを無造作に放り込んだ箱は、他人からはごみ箱に見えるかもしれないが宝の山なのだ。もちろんここに集まった者にはちゃんと宝に見えている。銘々、一つ一つ手にとっては、なめるように眺め、隣の人に手渡す。神谷君の作品は年々パワーアップ。残念ながらゲームのキャラクターは、筆者には分からないものが多かったが、迫力は十分に感じとることはできた。その点木下君の箱からは、キカイダーやら仮面ライダーやら分かる

ものが多いのだが、それはそれで妙だ。折る人、飲む人、見る人、語る人、それぞれ時間の過ぎるのを忘れている。明日も早いというのに。「もう寝よーよう」大部屋「大和」の住人のスタッフの一人は、力無く何度も訴えた。聞き入れられたときは3時近くになっていた。

同じ思いを持つ人達

黒川紀男（滋賀）

■初めての参加。受付で大津からですかと労いの言葉。そうなんです。朝早くから新幹線で来たのです。

すでに会場は多くの参加者がさまざまに。スゴイ！新しい折り紙を求めて、こんなに大勢の人が。若い人が多いのに驚く。折り紙って若い人もやるの。

■教室でまた驚く。周囲の若い方々は皆さん折紙作家ばかり。自分としては折り図を見て折るだけで、少しは折れると思っていたが、とてもかなわない。後は長年生きて得た厚かましきだけしかない。皆さんごめんなさいね。だけど皆さんすばらしい。静かだし、そして親切。いい人ばかり。ほんと紳士だ。



▲ごみ箱(?)の中身を見せあう子供たち。

■余裕の中で楽しく駄べりながらの教室。複雑な折りをギリギリこなしてこれが折り紙の神髄かと。頭をフルに回転させながら、なるほど、なるほどと感心しながら、いろいろ折り方見方を教室の方々からも教えてもらい、最後には心地よい満足感を十二分に味わうことが出来る。いいですね。

■皆が同じ趣味を持って、同じ思いを持ち、一つの世界の中にいる。たった2日間の短い短い時間だけれど、十分に価値のある充実した時間をいただいた。無理をしてでも来た甲斐があった。

幸運な最下位

佐藤健太郎（埼玉）

■今年は2回目の参加ということで、勇気を出して展示作品のコーナーに作品を持ち込んでみた。後ろでこっそり反応をうかがっていたら「紙がきれいだね」程度の評価は得ていたようで一安心である。それにしても今年は展示作品が少なかった。来年からは人気投票でもしてみてもどうだろうか。

■懇親会のビンゴ大会では百人以上の参加者中最下位となり、「探偵団一不運な男」「首都高を目をつぶって散歩していてもひかれない男」の称号を得た。途中まで参加していなかったというジェレミー氏を破っての入賞だけに感慨もひとしおである。

■2日間お世話になったスタッフの皆様、お疲れさまでした。賞品の万年筆は大事に使わせていただきます。ありがとうございました。

折り紙探偵団の事件簿 第2話

ユニット折り紙の秘密

新本裕一（京都）

（コンベンションの雰囲気味わいたいすべての人に送る）

コンベンション開始直前の緊張の中その事件は起きた。

「た、たいへんです！布施さんがいません！」古典おりがみに詳しい岡村さんがかけ込んできた。

今年のコンベンションの目玉「海外折り紙事情」を講演することになっていた布施知子さんが消えてしまったのだ！！

「どうしよう講演開始まであと60分

しかない。とにかくみんなで手分けして探すんだ」

その時、廊下で田村さんが小さな折り紙を拾ってきた。

「こんなものが廊下に落ちていました」

その折り紙は6枚で構成されたユニットの立方体であった。

「ユニットといえば布施さんだ。きっと犯人に連れ去られたときに布施さんが残した」

メッセージに違いない！しかし、いったい何のメッセージが・・・」私が何気なくそのユニットをいじっているとただの立方体だと思っていたものがバラの花へと変形したのである。

「そうか！バラといえばあの人しかない！犯人は川崎さんだ」

しかし、みんなでいくら探しても川崎

さんと布施さんの姿は見あたらない。コンベンション開始まであとわずかとなっても2人の手がかりは見つからなかった。

「きつとなにか見落としているはずだ。いったい私の推理のなにがまちがっているのだろう・・・」

とそのときである。会場の扉が突然開いた

「すみません。遅れました。」

単に遅刻しただけの川崎さんと布施さんが会場へとはいってきたのである。事件は初めから起こってはいなかったのであった・・・

折り紙探偵団の事件簿 第二話 ユニット折り紙の秘密 完

（この話はおおむねフィクションであり、実際の出来事と少ししか関係がありません）



▲「折り紙の哲学」の羽鳥公士郎さんの教室風景。



▲巻頭論文「折り紙という方法」の北條高史さん。



▲折り紙庵でお馴染みの岡村さんの教室風景。

'98 コンベンション フォト・アルバム

写真/世間亭キニスキー



▲年に1回のコンベンション。お陰様で、年に1回の大盛況で賑わうおりがみはうすの風景。当日この他に、入りきれない人達がいて外に溢れ出していた。

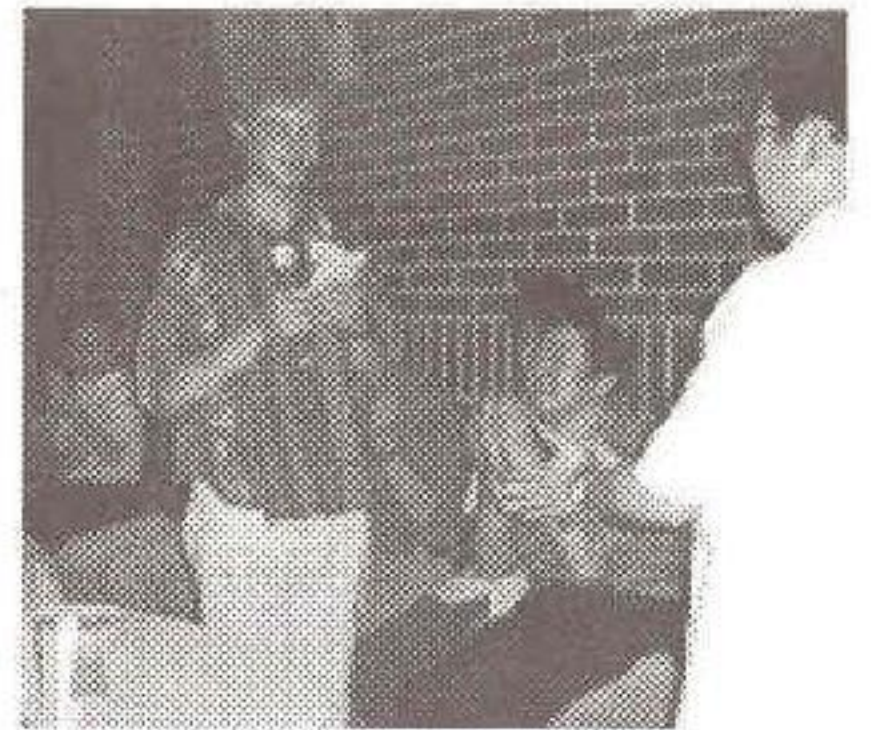


▼遠く九州から参加してくれた皆さん。左から川崎さん、西村さん宮本親子（3人）。



▲会期中、シェイファーさんの通訳をした塙さん。

▼打ち上げのバリラ（遅いカレー屋さん）で西川団長からシェイファーさんへ吉野基金の贈呈。



▼「懇親会がいちばん好きです。」第1回からの参加している、松浦さん（左）と新本さん（右）。



▲「天然なんて言わないで下さい。変わってますか？」島村麗子さん

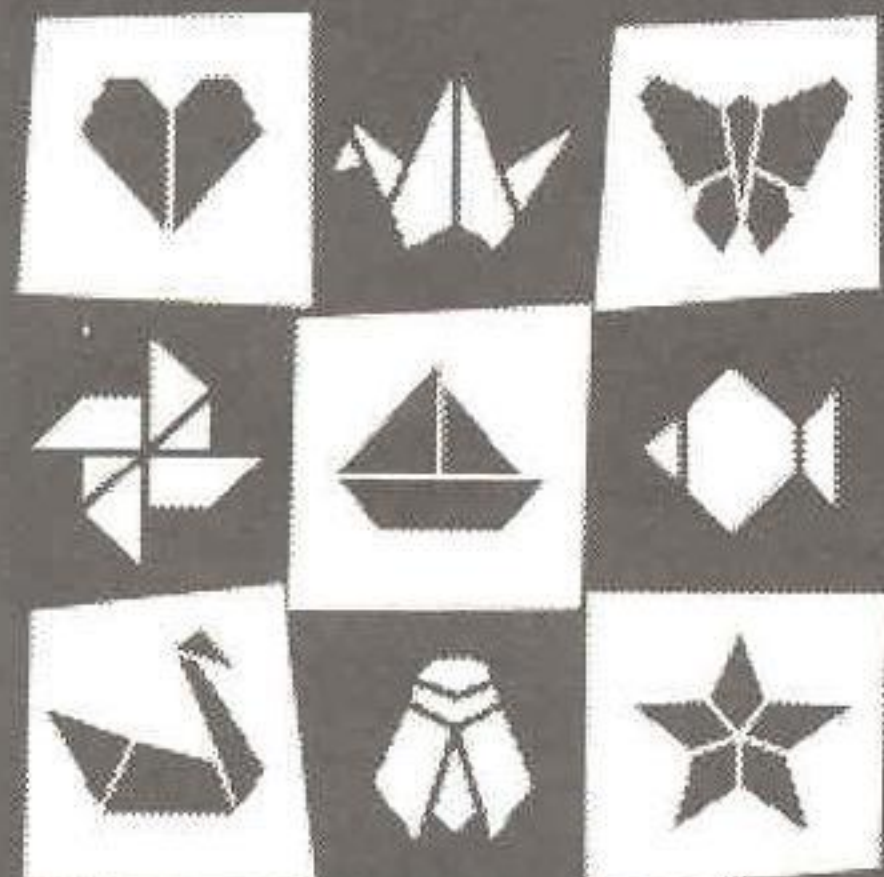
▼仕事の都合で「懇親会だけの参加ですみません」川村みゆきさん



▲「お疲れさま」打ち上げのバリラの外で西川夫妻。（バリラは定員20人位、この日35人を超す参加者で、一時に全員は入れなかった。）



ORIGAMI USA



ORIGAMI USA CONVENTION '98 NYC

6月25日、折り紙探偵団の小松、島村、羽鳥(公)、西川、本位田、前川(夫婦)、山口(親子)の9人が、ORIGAMI USAのコンベンションに参加するため、ニューヨークに向かった。(1日遅れで、小林(卓)氏が参加)

前川夫妻、山口氏は、4年前の同じワールドカップの年に続いて2回目の参加である。



やさしい笑顔のジャン・ポーリシュさん

●6月25日(木) (ローカルタイム) 空港で、トム・ハル氏の出迎えを受け、ホテルに。その後、連れだって、(NYの親戚と会うという前川夫妻を除いて) 自然史博物館内にある ORIGAMI USAの事務局に表敬訪問。ジャン・ポーリシュさんの暖かいおもてなしを受ける。

事務局では開催を前日に控え、ボランティアで会を盛り上げるスタッフがあわただしく動きまわっていた。英国から参加しているデビッド・ブリル氏も何やら手伝っている様子。我々も何かお手伝いしたいと思ったが、時差ボケ、睡眠不足で戦力にならず、早々に辞して、広い自然史博物館を見学。しかし、時間に余裕も無く、とても全部は見ることはできない。我々は閉館前に出口で落ち合う約束のはずだったが、誰かが戻ってこない、迷路のような博物館。事前に出口は調べておこう。グループ行動になると必ず一人くらいはぐれる人があるもんだ。(誰だ)

●6月26日(金) 午前中は各自自由に

過ごし、(この日の午前中と帰国日の午前中だけが唯一のショッピングと観光の時間という、折り紙漬けのツアー) 午後から会場のFIT(Fashion Institute of Technology)で作品展示と参加登録。終了後、ORIGAMI USAのボードメンバーによる夕食の招待を受ける。この日ホテルに戻ったのは午前様。コ



▼事務局で何やら働いているふうなブリルさん



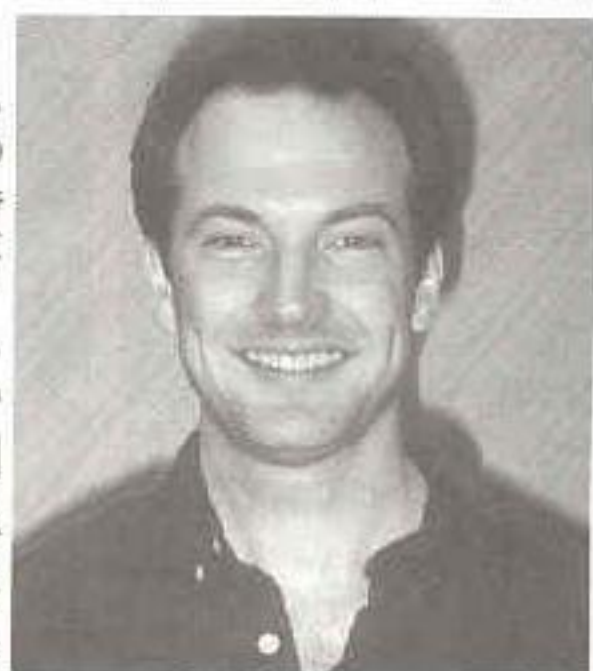
ンベンション常連参加者は「朝まで折り紙」だったそうである。

「展示作品には様々なものがありましたが、私にとって目立っていたのは、Chris Palmer さんです。写真だけで実物はありませんでしたが、ペンローズタイルや、ポロノイ分割などをモチーフにした作品もありました。」(前川)

●6月27日(土) コンベンション初日。参加者は全部で600人(!)。折り紙の「コンベンション」や「会議」の形式には様々なタイプがあり、それぞれ特徴があって、どれがよいとは一概

には言えないものだが、「ボランティアを中心的な力にして、誰もが平等の意識を持って参加する」という形式(実は、探偵団のコンベンションは4年前に ORIGAMI USAの影響を受け、我々もできないかと考え、始めたもので、このタイプである)では、最も大規模で、手際よく運営されている会であることは間違いない。なお、参加者の有名どころとしては、ブリルさん(イギリス)やモントロールさんなどの顔があった。

我々に対しては、「探偵団新聞の似顔絵を見ているのですね」と声をかけてきたり、作品についての質問をしてきたり、「待っていましたよ」という思いが感じられた。





▲久しぶりに合ったモンちゃん。彼の教室は徹底して折り図で折らす。終わったら折り図は回収していた。



▲通訳で大変お世話になったジュン・サカモトさん(中央)と、ブリルさん(右)、山口さん(左)



▲magic rose cubeの教室で、左から前川夫人、西川さん、本位田さん

また、全体会で探偵団への入会についてアナウンスしてもらったところ、すぐに、数十人の参加申込者があった。

会場には作品展示フロア(展示作品紹介参照)と、物品販売フロアがあり、書籍の販売見本コーナーの他に関係グッズの販売が、4年前より充実していたのも印象的であった。



▲人気の高かったmagic rose cubeを教えるORIGAMI USAの会長ジー

ンプルな初心者向けの。なお、この日講したのは、小松、西川、の各氏。

夜は会場のカフェ

「折鶴の風鈴」や「折鶴のお守り」など、わたししか持っていないのではないかと思います。わたしのまが棚に並んでいた。(前川)

教室の数は並行して約30で、探偵団のものに比べてシが充実して師をつとめ

テリアで参

加者全員揃ってディナー。なつかしい顔、珍しい顔、「をる」で見たことのある顔、貴重で楽しい夜であった。

●6月28日(日) コンベンション2日目。初日に続き、朝食から会場のカフェテリアでとり、全く外に出ない日が続く。

我々もそれぞれ選んだ教室に参加して1日を過ごす。この日講師をつとめたのは、小松、羽鳥、前川、山口の各氏。

夜、島村、羽鳥、西川、前川×2で、Mets対Yankees観戦ツアーに。1年に3ゲームしかないア・リーグとナ・リーグ交流戦ということで興奮気味で出かけた。

残りの小松、小林、本位田、山口×2は主催者の招待で、一風変わったレストランで少し遅い夕食をご馳走になる。

●6月29日(月) コンベンション3日目。この日は、作品の講習とは違った、技法や理論の講習。

「わたしがまず参加したのは、WuさんやBrillさん、Kirschenbaumさんをチェアマンにした作品の批評会でした。持ちよられた作品には、動物学者による「蛙をくわえた熊」や、「最近コンプレックス作品に疑問を感じている」という若いひとによるシンプル「少女像」、創作を始めたのは2年前だという青年の、「ティッシュフォイル」(フォイルにティッシュを

裏打ちした紙)を使ったラングバリ凝った作品Robinsonさんのモグラ、(彼も、紙の効率の悪い使い方は嫌だと言っていた)などがあり、それらを前に、なかなか面白い議論になりました。わたしも、幾何学と情緒的な部分の関係について、つたない英語力を振り絞って意見を言いました。(前川)

この他にはデータベース、紙の裏打ち、針金を使ったりしての作品の仕上げ、などなど。

最後を飾るのはレセプション。会場は落ちついた感じで、中庭のある最上階。おいしい飲み物と食べ物。3日間の疲れもとれる雰囲気、別れを惜しむ会でもあった。終了後、ジャンさんの案内で深夜のエンパイア・ステート・ビル・ツアー。夜景の美しさにうっとり。しかし、今日も午前様。最後まで、その日のうちにホテルに帰ることはなかった。



▲なぜだかVサインする小林さん。隣は「天然」の島村さん。

●6月30日(火) 帰国の日。残り少ない時間を利用して買い物をする人。疲れて寝ている人。散歩する人などまちまちに時間を過ごし、昼ごろホテルを出発、空港へ。こんなに折り紙漬けた、コンベンションを過ごしたというのに、出発待ちの間中、黙々と折っている人がいた。飛行機は、気象の関係で出発も到着もかなり遅れた。



▼前川さんの教室風景



▼マーティン・ウォールさん(右=イギリス)も来ていた。レセプションで、左はジャンさん。

小松英夫 (ORIGAMI USA 招待者) アメリカ折り紙紀行

文と絵/小松英夫



▲コンベンションの会場で、自身のブースに日本から持参した作品を飾りつけする筆者。

6/25(出発の日) 21才にして初めて乗る飛行機が12時間の長旅。無事にケネディ空港に着き、迎えに来てくれたトム・ハルさんとホテルへ向かう。車中でさっそく羽ばたく「こうもり」を教わる。チェック・インの後は皆で自然史博物館へ行く。Origami USAの事務局はこの地下にあるのだ。ジャン・ポーリッシュさんのあたたかい歓迎を受ける。博物館の展示を見て回ったのだが、頭はすでに折り紙モードになっており、「これを折ったら面白い」だの「吉野さんの骨格のデザインは的確だなあ」だの考えている自分がいた。

6/26(コンベンション前日) 600人という規模の大きさのためか、コンベンションの受付はこの日の夕方に行われた。もらった折り図集のボリュームにびっくり。明日の講習の打ち合わせの

後、作品展示の飾り付けをする。ほくには探偵団メンバーの作品とは別に展示場所をもらえたので、とりあえず持ってきた作品をすべて並べる。他の人の作品は……ジョン・モンテロール、マーク・カーシェンバウム、ジョセフ・ウー、クリス・バルマー……、皆、紙もしっかり選んでいて見栄えがするなあ。ちょっと反省。ん？これはなんだ……それは立方体が変形していきバラの花になるという、その名も「magic rose cube」。これはすごい！と感動。作者はヴァンさんという人だそうだが、このコンベンションには来てないという。

6/27(コンベンション1日目) Origami USAのコンベンションの形式は折紙探偵団とほとんど同じで(と言うか探偵団がまねをした)、ただ同時に開かれる教室が30もある。その中に山口、前川、西川、羽鳥各氏そしてほくも講師としてエントリーしている。さっそく午前中は「リス」の講習。通訳の方に助けられつつ、何とか全員折りあがる。何となく感じもつかめて一安心。つづいて午後は「パンダ」、これは折り図未発表のものだ(今期中に載せるかも)。ここではカーシェンバウムさんがアシスタントをしてくれた。そのおかげで少々難しめのこの作品も無事終了。よく使う英語の言い回しも少し覚えてきたぞ。会場に戻り他のメンバーに、何の教室に出たかなどと訊くと例の「magic rose cube」を習ってきた人が多い。いいなあ。夜は会場の学校の食堂で懇親会。

6/28(コンベンション2日目) 時差ぼけと寝不足のためか、めまいがする。そんな中「みみずく」の講習。難易度を中級としていたせいか、最後に立体化するこの作品は、人によって仕上がりにばらつきが出てしまった。それに引き替え前川さんは時間ぴったりに完成という完璧な講習だったそう。調子が優れないので午後は講習にも出ずに静かにしていた。

島村麗子さんの傑作なキャラクターをちょっと紹介。題して「島村語録」



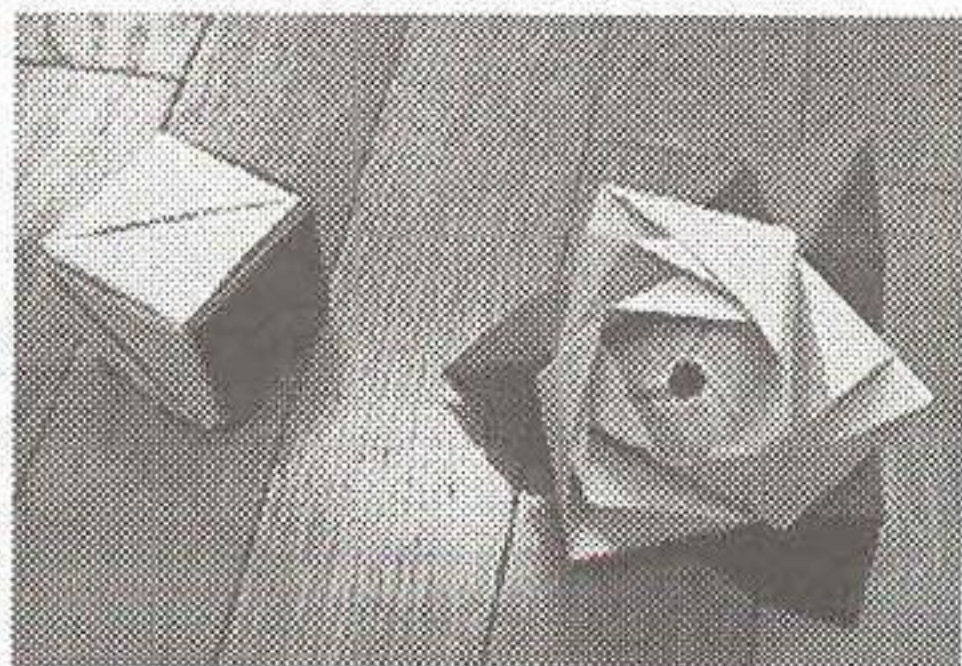
★「はい、天然ですう」
(山口さんに「君は天然だねえ」と言われて)
★「あ、モンテロールさんが歩いてる！」
(モンテロール氏をみず)

6/29(コンベンション3日目) この日は作品の講習はなく、折り紙に関するディスカッションや紙の裏打ちなどの講義が行われた。当然英語なのでほくは出ずに、会場で「magic rose cube」のにらみ折り。また、何人かと話をしたのだが、自分の英語力のなさにがっかり、突っ込んだ話は全くできなかった。最後の夜はレセプションの後、向こうの人たちとエンパイアステートビルへ。ニューヨークの夜景を楽しみ、別れを惜しんだ。

6/30(帰国) 帰りの飛行機の中で考えた。このコンベンションで感じたのは、多くの人が「他人を楽しませたい、喜ばせたい」という気持ちに溢れているということだった。そしてこの精神がボランティアという形になってこの大きなイベントを成し遂げていた。出会った人は皆、僕たちにこころよく接してくれた。改めて振り返ると、ほく自身作品を作りそれを折り図にするというのは、自分が出会った折り紙の楽しさを他人に伝えたい、他人と共有したいということなのでは、と思った。折り紙は人をハッピーにさせる、そのことを実感できた旅だった。

最後になりますが、コンベンションに招待して下さった Origami USA の皆さん、また旅行中にお世話になったすべての方にお礼申し上げます。

▼magic rose cube 左は閉じてあるキューブ。開くとバラになる。



折り紙基礎英語



1工程毎に
これを言う(大げさ)

そんな中「みみずく」の講習。難易度を中級としていたせいか、最後に立体化するこの作品は、人によって仕上がりにばらつきが出てしまった。それに引き替え前川さんは時間ぴったりに完成という完璧な講習だったそう。調子が優れないので午後は講習にも出ずに静かに



ORIGAMI TANTEIDAN SHIZUOKA MINI CONVENTION



11月22日(日)～23日(月)

静岡・静岡市

折紙探偵団 静岡 ミニ・コンベンション 参加者募集

成功させよう地方大会 参加申込はお早めに

●折紙探偵団コンベンション地方版がいよいよスタートすることになりました。「コンベンションで何?」と思われる方へ。単に、「折り紙教室大会」なのです。会期は11月21日、22日の二日間静岡県静岡市にある、公立教職員組合の施設「たちばな会館」で開かれます。かねてより、中央ばかりでなく、地方在住者が気軽に参加できる地方大会ができないかのご要望の声に応え、開催されます。そこで、第1弾として、比較的動きやすく、実行が可能な静岡が選ばれました。(現在、静岡には30人弱のメンバーがいる。)100人程度の参加を見込んでいます。

折り紙の普及にとって、今後を占う

試金石となる大会で、今後、各地への広がり的一步となる画期的な大会です。

とはいってもまだ日時が決まったばかり、運営スタッフなど手が足りないのも事実。地方色を出した、温もりのある大会を成功させたいと、お手伝いをしてくれるスタッフを募集しています。また、運営、企画などのアイデアも募集中。メンバーの皆さん、気軽に声をかけて一緒に手作りで盛り上げませんか。

●参加費、2日間で4,000円(予定)折り紙用紙付き。

22日の夕方には、懇親会もあります。(会費未定)また、宿泊もできますが、申込時期、人数に制限があるので、

宿泊を希望される方は早めの問い合わせをする事をお勧めします。(素泊まり、一泊4,500円)

探偵団主要メンバーも参加

メンバーは未定ですが、探偵団新聞他で、活躍中の皆さんが、いくつかの教室を担当してくれるので、今から希望の作品をリクエストするのもよいでしょう。参加予定者は、川畑文昭、西川誠司、木村良寿、布施知子、北條高史、山口真の各氏。他にも数名が参加すると思われる。(予定者も、都合で変更される場合があります。ご了承下さい。)なお、次号で詳しいお知らせができると考えられます。

●講師も募集中です。

問い合わせ先は探偵団事務局です。

第4回折紙探偵団 コンベンション折り図集

●毎回好評の折紙探偵団コンベンション折り図集の第4巻が出来ました。今年の折り図集は192ページと大幅にページ数も増え、メンバーの皆さんの努力で折り図もととてもきれいです。装丁も含めて美しい作品集となっています。コンベンションに参加



できなかった皆さんには、見逃すことの出来ない一冊でしょう。

激安という声もでているこの作品集。800部の限定です。お早め

にお問い合わせ下さい。

なお、取り扱いはおりがみはうすです。お振り込みの節にはお間違いのないようご注意ください。

郵便振り込みは口座は

00120-9-715400

おりがみはうすです。

現金書留の場合は

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

おりがみはうすです。

定価1,500円 送料380円(含む梱包)

●主な内容

○1枚折りの五角箱＝布施知子 ○簡易式そのベユニット＝橘高美保子 ○スター・ポッド、桜＝川村みゆき ○日本版ゴジラ＝山梨雅弘 ○謎の宇宙人グレイ＝笹出晋司 ○線路＝木下一郎、川崎敏和 ○ケンタウルス＝川畑文昭 ○トナカイ＝神谷哲史 ○ほうきに乗った魔女＝宮島 登 ○かわせみ＝小松英夫 ○弥勒菩薩、航空便＝北條高史 ○無限折りピラミッド＝前川淳 ○馬＝小笹径一 ○ペガサス、トノサマバッタ＝西川誠司 ○人魚＝山田勝久 ○ティラノサウルス＝高井弘明、マメンチサウルス＝木村哲夫、アパトサウルス＝濱田隆幸 ○雪華＝鈴木邦雄 ○ピーターラビット、ハイヒール＝土戸英二 ○F-5E タイガーII＝木村良寿 ○ハリヤー＝吉野一生 ○Flasher Superme 他＝シェイファー ○一本足からかさ＝西村修二 ○ヒロシマの折り＝岡村昌夫 ○新幹線＝中島進 ○祈る女＝羽鳥公士郎 ○フェイス・ハガー＝安西真 ○三角錐、四角錐＝田中稔憲 ○冬虫夏草＝木下剛 ○牛乳パックのギフトボックス＝山口真

おりすじ

箸袋大魔人への道

渡辺 大

そう、あれはなんて事のない普通の夜のはずだった。いつものようにゆらりゆらりと電網の波に漂っていた私はちょっと疲れを感じて一服することにした。夜の波打ち際は人が多く、「コーヒーを入れながら」なんて優雅なことができるのがいい。入れ立てのインスタントを片手にしてモニターの前に戻る。もちろん坂東八十助(古い?)も知っているあれだ。ちょうどまい具合にテキスト部分はダウンロード済みだったのでコーヒーを一口吸って目を通す。そのとき私は自分の目が「箸袋魔人」という言葉を認識するのを感じた。瞬間、その奇妙な文字列は私の頭を真っ白に焼き尽くし、スパークをまき散らしながら毛細血管を駆けめぐり、また一瞬にして去っていった。...そして私は箸袋魔人への長い道のりを歩くことになる。けして報われることはないとわかっている荆の道を。

とまあ前置きはさておいて、最近箸袋折り紙を少し考えている。お気軽かつお手軽なのが嬉しいところ

なのだが、箸袋おりがみにはなんともいっても箸袋が欠かせない。ところが私はいきなりここでつまづいた。外食とあまり縁のない生活を送っているため箸袋にお目にかかるチャンスがないのだ。しかも最近は完全密封タイプの箸袋も多い(怒)。

箸袋魔人見習いいきなりピンチ!!!

そこで秘密結社(いつからそうなった?)「箸袋折紙普及教会」はあなたのお布施を待っている!もちろん活動員も募集中だ!その箸袋を持っている君、捨ててしまわないでちょっと楽しいことをしてみないか?

と、こんなところでこんな事を書いてしまったけれど、ちなみに「箸袋折り紙」とは

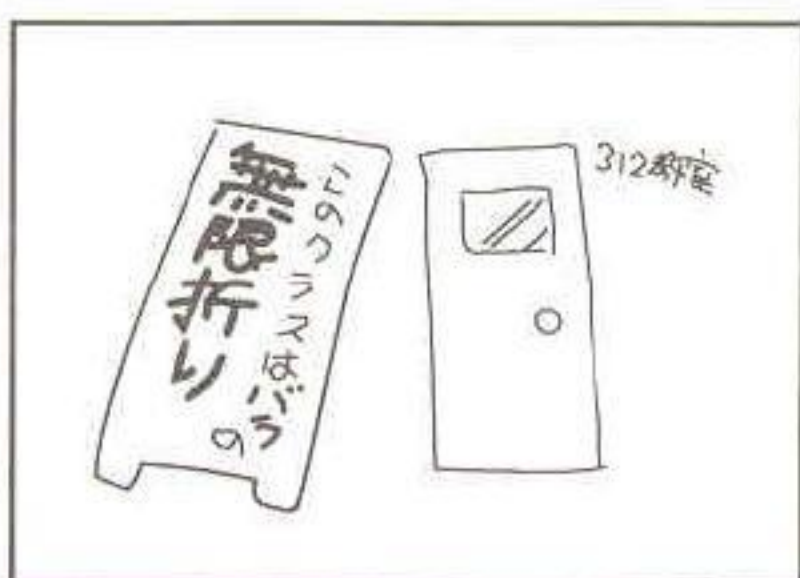
1. 箸袋で折れる
2. 箸置きになる
3. 簡単に折れる

事が条件だと思います。桃谷氏の一筆折りの系列が殆どを占めているようだけど、それだけじゃないはず。でも、けっこう難しいよね。



迷探偵
オリオン 君
作:フリーハンド山梨

肩といえば折紙...の巻



● 求む、譲る

● 捜し物はありませんか

折り紙に関することで捜し物はありませんか。一人で捜し求めている手に入りません。探偵団のネットワークを使って捜してみるのもひとつの手です。気軽に問い合わせ下さい。

コンベンションは
おりがみメーカー4社に
用紙の協力を得ています。

- (株)クラサワ
- ショウワグリーム(株)
- トーヨー
- 中村紙工

ありがとうございました。

折紙探偵団定期例会の お知らせ

■8月29日(土) 文京区民センター
2時頃から。今回は、コンベンション後初めての例会となります。コンベンションの反省会を兼ねた例会となりますので、意見をまとめて置いて下さい。来年度のコンベンションは探偵団10周年第5回大会となりますので、積極的な意見をお待ちしています。

■9月26日(土) 文京区民センター
2時頃から。久しぶりに講習会を開きます。講師は未定です。

ホームページ公開中

公開URLは、
<http://www.ask.or.jp/origami/t/> です。団員パスワードは、大文字/小文字区別して、Pyramid です。

おりがみはうす

ホームページ公開中

公開URLは、
<http://www.remus.dti.ne.jp/origamih/>

定価 300 円

発行・折紙探偵団

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

ギャラリーおりがみはうす内

Phone (03) 5684-6080

発行人・西川誠司

編集人・岡村昌夫